

令和7年度リージョナルシアター事業  
Regional Theatre Projects  
事業報告書





## 目次

はじめに .....	3
事業概要 .....	4
派遣アーティストプロフィール .....	6
事業の流れ .....	8
各地のワークショップ・トピック .....	9
<b>釜石市民ホール</b> （岩手県釜石市） .....	10
アーティストレポート 樋口ミユ .....	15
<b>せんだい演劇工房10-BOX</b> （宮城県仙台市） .....	16
アーティストレポート 福田修志 .....	21
<b>FSXホール</b> （東京都国立市） .....	22
アーティストレポート 越智良江 .....	27
<b>ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿</b> （三重県鈴鹿市） .....	28
アーティストレポート 田上 豊 .....	32
<b>箕面市立メイプルホール</b> （大阪府箕面市） .....	34
アーティストレポート 有門正太郎 .....	39
<b>東リ いたみホール</b> （兵庫県伊丹市） .....	40
アーティストレポート 志賀亮史 .....	45



# はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業に取り組んでいます。

平成26年度からはじまった本事業は、演劇の表現者（演出家等）を公共ホールに派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施する事業です。各参加ホールのプログラムは、地域のニーズに合わせて自由に企画され、学校の授業時間を使って実施するアウトリーチ、幅広い年代の市民が交流するキッカケにするための公募ワークショップ、公立文化施設・地方公共団体職員等が文化事業について考えるワークショップなど、多彩なプログラムとなりました。

この報告書は、「令和7年度リージョナルシアター事業」において実施した事業内容をまとめたものです。地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者が、演劇の手法を活用したワークショップを企画される際や、公共ホールの担当者と地域の表現者の共同作業を行う際の参考としていただければ幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、事業実施にあたり貴重なアドバイスや各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さまのご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

一般財団法人 地域創造

# 事業概要

## 1. 趣旨

一般財団法人地域創造は、公共ホールの活性化と創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、演劇の表現者（演出家等）を公共ホールに派遣し演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

## 2. 対象団体

### ①地方公共団体

②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

③地域における芸術文化活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人等（②を除く。）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

## 3. 事業内容

派遣された演劇の表現者（演出家等、以下派遣アーティスト）と協働して地域や対象団体の課題やビジョンを元に事業を企画し、演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

### ①事業日程

原則として3泊4日以内を2回、または5泊6日以内を1回とします。

なお、事業実施に向けて打合せやアウトリーチ先の下見等を1泊2日以内で実施します。

### ②プログラムの実施時間

計840分のプログラムを実施します。

## 【実施時間の考え方】

### 〈プログラムの実施時間〉

下見を除いた派遣において計840分のプログラムを実施することができます。時間の配分は、実施団体と地域創造、派遣アーティストの三者で調整します。規定の時間数や日数を超えるプログラムの場合は、別途謝金や経費が発生し、実施団体の負担となります。

### 〈学校でのアウトリーチについて〉

学校（小・中・高校等）の授業枠でアウトリーチを実施する場合、1コマの時間は、小学校では45分×2時限（90分）、中学・高校等では50分×2時限（100分）を最小限とします。また、1コマの対象人数は1クラス約30人を目安にしています。

#### 4. 支援措置

##### (1) 一般財団法人地域創造が負担する経費

###### ①派遣アーティストにかかる経費

派遣アーティストの下見、プログラム実施にかかる派遣経費（謝金、交通費、宿泊費等）  
及びプログラム実施の際のアシスタント2名分の派遣経費（謝金、交通費、宿泊費等）

##### (2) 実施団体が負担する経費

###### ①研修会参加にかかる経費

ホール担当者の研修会の旅費（交通費、宿泊費等）

###### ②プログラム実施にかかる経費

プログラムを実施する際の経費（会場使用料、機材使用料、現地移動費、消耗品等）

###### ③その他

規定の時間や日数を超えて実施する場合の謝金や旅費等の経費

##### (3) その他

###### ①派遣アーティストの指定はできません。

#### 5. プログラムについて

各地域の課題に取り組むために、派遣アーティストが地域で演劇の手法を使ったワークショップを行います。学校でのアウトリーチ、地元の演劇人や学校の先生、行政職員を対象にした研修会や子どもたちを対象にした演劇に触れる時間、地元の若い演劇人が派遣アーティストのアシスタントとしてワークショップに関わりステップアップを試みるなど、地域独自の様々なプログラムを自由に企画していただけます。

# 派遣アーティストプロフィール

派遣アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、実施団体の企画する事業の内容について、実施団体担当者と共に検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。

## 有門 正太郎（俳優・演出家・劇作家、有門正太郎プレゼンツ主宰）



©浅田 政志

1975年生まれ、北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年より「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれば何でも出来る」を合い言葉に、作・演出・出演を自ら務める。俳優として様々な全国ツアー公演に参加する傍ら、市民創作劇やワークショップ、アウトリーチ活動を全国で展開。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャンプ～チャレンジ！えんげき～」の総合演出を務めるなど、後進の育成や地域交流にも尽力している。主な出演作に、富良野塾『今日、悲別で』『走る』、時空の旅『シラノ・ド・ベルジュラック』など。2016年佐藤佐吉賞優秀主演男優賞受賞。2025年よりキタゲキ連携アーティスト。

## 福田 修志（劇作家・演出家、F'sCompany代表）



1975年長崎市生まれ。劇作家・演出家。長崎大学教育学部卒。1997年にF's Company（フーズ・カンパニー）を旗揚げし、代表と作・演出を務める。心の機微を丁寧に描く作風が特徴で、長崎弁で描かれる作品には独特の温かさが感じられる。劇団外の活動としては、長崎市での市民参加型舞台の経験を活かし、子供から大人までが一緒になって創作を楽しめる空間作りを大切に、地域にある歴史や風習を背景とした作品創作を各地で行っている。また近年では演劇を活用した様々な企画やワークショップを行い、社会の接着剤のような活動も多くなっている。その他、「演劇を長崎の娯楽の一つに」という目標を実現すべく、2018年には長崎市内にアトリエPentAという小さな劇場を構え、ディレクターとしても活動を続けている。代表作『マチクイの詩』『けしてきえないひ』『ノイジー』。日本劇作家協会九州支部 支部長（2024～）。

## 越智 良江（劇作家・演出家、劇団ユニットKOKOO主宰）



©Masahiro Hasuo

広島生まれ・東京在住。劇作家・演出家。演劇ユニットKOKOO主宰。広島で「劇団Tempa」を創出し、作品の創造、創客に奔走。その他、伝統芸能・神楽をモチーフにした『贋作・三年目』、演劇引力広島プロデュース公演『マリーゴールの女たち』劇作、RCC ラジオ番組『ラジブリズム 剣と弓』作・演出など。

演劇ユニットKOKOO「ドッブラー」（東京）、「瀬戸内国際芸術祭2019」「直島こども劇団」（直島）、新潟「越後妻有大地の芸術祭」（津南町）、「UNMANNED 無人駅の芸術祭大井川」（静岡県）、「対話アート2025A.I.R./ 福祉施設 長野県西駒郷」（駒ヶ根市）、「八戸ポータルミュージアム はっち15周年記念事業/AIR」（八戸）など、各地で活動している。

## 志賀 亮史（演出家、百景社代表）



1979年埼玉県生まれ。演出家。百景社代表。2000年、大学在学時に劇団「百景社」を旗揚げ、以後ほぼ全ての作品で演出を担当する。劇団名の「百景社」は、シェイクスピアなどの古典作品や文学作品をいろいろな角度から読み直し、今にも通じる新たな景色を描きたいという思いから名付ける。旗揚げ当初は、拠点である茨城県を中心に野外公演や田んぼのなか、石組倉庫、庭園など、いわゆる劇場外での上演を多く行っていたが、2009年に利賀演劇人コンクールで優秀演劇人賞（演出）を受賞後、日本各地や時に海外での上演なども行うようになる。2013年に茨城県土浦市にアトリエを構えてからは、自身の作品創作以外にも、さまざまな舞台作品を招聘するなどの活動も行なっている。

## 樋口 ミユ（劇作家・演出家、PlantM主宰）



©伊藤 華織

1995年の劇団Uglyduckling旗揚げ以降、2011年の解散まで劇団公演32作品の戯曲を執筆する。同年、座・高円寺の「劇場創造アカデミー」演出コースに編入し、佐藤信氏に師事。2012年にPlant Mを立ち上げ、大阪・東京をはじめ仙台・横浜・豊橋・雲南・沖縄など各地で公演。2011年から2021年の10年間、3月春分の日に関東大震災のチャリティーデーを行った。1999年『深流波～シンリュウハ～』、2000年『ひとよ一夜に18片』でOMS戯曲賞大賞を2年連続受賞、2012年ラジオドラマ『飛ばせハイウェイ、飛ばせ人生』で放送文化基金賞（ラジオドラマ部門）。2019年よりOMS戯曲賞の最終選考審査員を務める。

## <アドバイザー兼アーティスト>

### 多田 淳之介（演出家、東京デスロック主宰）



©平岩 亨

1976年生まれ。神奈川県・千葉県出身。演出家。東京デスロック主宰。

現代を生きる人々の当事者性をテーマに古典から現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。地域、教育機関での子どもや演劇を専門としない人との創作、ワークショップ、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を軸にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3期9年間務める。2014年『ガモメ カルメギ』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。

四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。おもな演出作品に東京デスロック『再生』、KAAT 神奈川芸術劇場+東京デスロック+第12言語演劇スタジオ日韓合作『外地の三人姉妹』、SPAC 静岡県舞台芸術センター『伊豆の踊子』『ガリレオ〜ENDLESS TURN〜』、精神障害を考える演劇ワークショッププロジェクト『IKIZAMA ミュージックパーティー』『IKIZAMA ミュージックでいなーしょー』など。

### 田上 豊（劇作家・演出家、田上パル主宰）



1983年生まれ熊本県出身。劇作家・演出家。田上パル主宰。専門は現代劇。移りゆく時代の中で揺らぐ人間やその集団を描き出すのを得意とする。劇団外でも、公共劇場プロデュース公演やダンスカンパニーとの合作、国際共同事業など様々な活動を展開。近年は全国各地の小学生から高校生までを対象にした作品創作を精力的に行い、地域性を生かした演出法に定評がある。創作型、体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。2019年より富士見市民文化会館キラリふじみの芸術監督を1期3年務める。奈良市アートプロジェクト舞台芸術プログラムディレクター。桜美林大学教員。江原河畔劇場芸術監督。

## <アドバイザー>

内藤 裕敬（劇作家・演出家、南河内万歳一座座長）

岩崎 正裕（劇作家・演出家、劇団太陽族代表）

# 事業の流れ

## 1 全体研修会

令和6年11月18日（月）～19日（火）

---

## 2 事業内容の調整・下見の調整

派遣先への説明、日程調整

---

## 3 下見派遣（原則1泊2日）

派遣アーティストと地域創造担当者が現地を訪問し、打合せと会場下見等を行う。

---

## 4 事業内容の再調整・派遣先との調整

---

## 5 合意書の締結（三者）

- ・ワークショップ実施日程、内容決定
  - ・経費負担の取り決め等
- 

## 6 1回目派遣（原則3泊4日／2回目派遣と合わせて5泊6日も可）

プログラム実施

（派遣アーティスト、アシスタント×2名、地域創造1～2名）

[1日目] 移動・打合せ、[2日目] 実施1日目、[3日目] 実施2日目、[4日目] 打合せ・移動

---

## 7 2回目派遣（原則3泊4日）

プログラム実施

（派遣アーティスト、アシスタント×2名、地域創造1～2名）

[1日目] 移動・打合せ、[2日目] 実施1日目、[3日目] 実施2日目、[4日目] フィードバック・移動

---

## 8 事業報告書提出（事業終了1ヶ月後）

# 各地のワークショップ・トピック

リージョナルシアター事業は、実施団体とアーティスト、地域創造の三者が対話をしながら地域やホールの課題や展望を鑑みてプログラムを作っていきます。

令和7年度の特徴的なプログラムをご紹介します。

## 学校の授業時間で行うアウトリーチプログラム

子どもへのアプローチとして、学校の授業時間内で演劇の手法によるワークショップを実施しました。想像力を使うプログラムで、子どもたちも先生も、普段の授業では見られないクラスメイトの新たな一面を垣間見ることができました。



中学校でのアウトリーチ（仙台市）



小学校でのアウトリーチ（伊丹市）

## ホールの魅力を感じてもらおうプログラム

市民が事業や文化施設についての理解や愛着を深めたり、また公演の鑑賞だけではないホールの役割を知っていただくことを目的に、公募型のワークショップを実施しました。普段見ることのできないホールの裏側や施設の歴史を知ることによって、地域やホールの魅力を再発見することができました。



「裏方スタッフになってみよう！」（釜石市）



会館周遊型ワークショップ「すずぶんサーキットシアター」（鈴鹿市）

## 特定の年齢層を対象としたプログラム

公募型ではあるものの対象となる年代を絞ることで、その年代に特化したプログラムを実施しました。対象者を明確にして、ワークショップタイトルとして打ち出すことで、「これは自分に向けたワークショップだ」と感じた方が多かったようで、これまで会館に足を運ぶ機会がなかった市民と新たに出会うことができました。



Z世代を対象とした演劇ワークショップ（国立市）



「65歳から箕面を楽しむ講座」（箕面市）

## 釜石市民ホール（岩手県釜石市） 実施データ

実施団体	釜石まちづくり株式会社
実施ホール	釜石市民ホール
担当者	中村仁彦
実施期間	下見派遣 令和7年6月17日（火）～6月18日（水） 1回目派遣 令和7年9月1日（月）～9月4日（木） 2回目派遣 令和7年12月19日（金）～12月22日（月）
アーティスト等	アーティスト：樋口ミュ アシスタント：ののあざみ、吉川剛史（1回目派遣）、武田幹也（2回目派遣） アドバイザー：内藤裕敬（2回目派遣）
<p>■下見派遣内容</p> <p>6月17日（火） 1回目派遣事業内容検討・アウトリーチ先下見打合せ・キーパーソンとの意見交換や活動見学 6月18日（水） 1回目および2回目派遣事業内容検討・キーパーソンとの面談意見交換</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>9月2日（火） 10:45～12:15 アウトリーチ①双葉小学校3年生「おとしものがたり」 13:30～15:05 アウトリーチ②双葉小学校4年生「おとしものがたり」 9月3日（水） 10:00～12:00 ホール職員向けインリーチ 18:30～20:30 ワークショップ①「かまいし夢未来大作戦」</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>12月20日（土） 13:30～15:30 ワークショップ②「演劇のお仕事体験プログラム」作家になってみよう！ 12月21日（日） 10:30～12:30 ワークショップ③「演劇のお仕事体験プログラム」裏方スタッフになってみよう！子ども対象 14:00～16:00 ワークショップ④「演劇のお仕事体験プログラム」裏方スタッフになってみよう！一般対象</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣				
月日	6/17（火）	6/18（水）	9/1（月）	9/2（火）	9/3（水）	9/4（木）	12/19（金）	12/20（土）	12/21（日）	12/22（月）	
9:00	移動	1回目事業 検討	移動	移動	インリーチ ホール職員	1回目事業 振り返り	移動	WS準備 個々制作	WS会場 準備	事業全体 振り返り	
10:00		キーパーソン 面談	OR準備	2回目事業 打合せ		移動			ワーク ショップ③ 「スタッフ」 子ども対象		
11:00		2回目事業 検討	アウトリーチ① 双葉小3年生	休憩							休憩
12:00				休憩							
13:00	1回目事業 検討	全体 振り返り	移動	第2回事業 ワーク ショップ 下見打合せ	移動	移動	移動	ワーク ショップ② 「作家」	休憩	移動	
14:00	移動			アウトリーチ② 双葉小4年生					公募ワーク ショップ 準備		ワーク ショップ④ 「スタッフ」 一般
15:00	OR先下見 打合せ			先生と振り返り 移動							
16:00	1回目事業 検討	移動	打合せ	打合せ等	移動	移動	打合せ	WS準備 個々制作	簡単な 振り返り	移動	
17:00									WS舞台 打合せ		WS舞台 仕込確認 リハーサル
18:00	キーパーソン 面談										
19:00	キーパーソン 活動見学			ワーク ショップ① 夢未来 大作戦							
20:00											
21:00											

## プログラム詳細

アウトリーチ①双葉小学校3年生「おとしものがたり」

9月2日（火）10:45～12:15

会場：釜石市立双葉小学校3年生教室

参加者：17名

持ち主と別れてしまい、リサイクルセンターに行ってしまう「おとしもの」の気持ちになったり、持ち主を想像したりして、オリジナルの物語を作る内容。はじめに樋口さんとアシスタントによる「落とし物小芝居」をみて、グループ分けの後、落とし物の名前や持ち主がどんな人なのか、今の気持ちなど色々な情報を「おとしものじょうほう」用紙に記入していきますが、一つの設問を記入するごとに隣の人へ、その用紙をずらしていくというルールがあり、ひと通り廻って自分のところに戻ってきた時、自分が考えていた以上に面白い設定やドラマが出来上がっていました。自分だけで考えるのではなく他の人にも考えてもらったことで、他人の思いも大事にでき、想像できました。（下段に続く）



アウトリーチ②双葉小学校4年生「おとしものがたり」

9月2日（火）13:30～15:05

会場：釜石市立双葉小学校4年生教室

参加者：19名

演劇ワークショップと銘打つと何か演技指導をするのかと思われてしまうため、演劇を使ったゲーム・遊びをすることで表現の自由を楽しんで貰い、また児童間のコミュニケーションを円滑にして学校生活に活かしてもらうことを目的としました。両学年とも同じ内容でしたが、どちらの担任の先生も生徒と一緒に楽しんでいただきました。先生以外の大人と出会うことが普段の学校生活では機会がなく、いつもは手を挙げない子が、物語が出来上がった後の発表の時に積極的に手を挙げるなど、児童たちの普段は見ない個性が出てきて、先生方としてもすごく充実した時間だったとのこと。教務主任の先生が普段から、非日常体験を積極的に取り入れる先生だったことも、実施においてとても助けられました。



ホール職員向けインリーチ

9月3日（水）10:00～12:00

会場：釜石市民ホールTETTO ホールB

参加者：5名

事業担当者がどんな想いで事業をしているのか、具体的にワークショップとはどんな内容なのかを理解してもらう目的で実施。リージョナルシアターについて解説、前日実施した小学校アウトリーチを体験し、樋口さんよりどんな狙いがあるのかをフィードバックしていただきました。続いて、アシスタントの、ののさん、吉川さんがそれぞれホール運営に携わっていらっしゃるのので、そこでの取り組みを紹介していただきました。事業担当以外、ワークショップに参加すること、他ホールスタッフとの交流が少ないため、ホールが行う育成事業について、理解を深められたと思います。



### ワークショップ①「かまいし夢未来大作戦」

9月3日（水）18:30～20:30

会場：釜石市民ホールTETTO ホールA舞台上

参加者：7名

将来どんな街になって欲しいか、そのためにホールはどんなことができるのかを自由に語り合い、アイデアを一緒に探すワークショップ。高校生以上対象公募。集まったのは、地元の演劇関係者、令和7年度開講したタレント養成事務所代表、市議員、市役所職員など。輪になって着席し自己紹介、それぞれの名前を覚えるためのコミュニケーションゲーム（〇〇〇みつおゲーム）、ホールでやってみたい事業を「お金や実現性を気にしないで」自由に語り合いアイデアを書き出す、休憩しながら釜石の未来について思うことを短冊に書く、その短冊をアシスタントが読み上げる。「オリジナル人生ゲーム（ホールで人間すごろく）」「ラーメンフェスティバル」などの具体的なアイデアが生まれました。



### ワークショップ②「演劇のお仕事体験プログラム」作家になってみよう！

12月20日（土）13:30～15:30

会場：釜石情報交流センター釜石PIT

参加者：7名

近年中にホール事業として演劇部を立ち上げることを目標にし、市内の演劇キーパーソンに意見を伺い、スタッフ育成からスタートしてみることに。今回は作家と裏方スタッフ体験プログラムを開催。「作家になってみよう」では、具体的なテクニックを学ぶのではなく、作家のはじまりを体験する内容となりました。樋口さんオリジナルの「作家ノート」に、自分の年表や好きな事・嫌いな事などを記入していくことで、自分物語を作り上げました。参加は中学生から50歳代までで、職種は違うものの実際に作家的な仕事経験のある人、映像系の大学を目指す高校生、将来的に作家を目指している中学生など、様々な人材がいることを知る貴重な機会となりました。



### ワークショップ③「演劇のお仕事体験プログラム」裏方スタッフになってみよう！子ども対象

12月21日（日）10:30～12:30

会場：釜石市民ホールTETTO ホールAおよび楽屋施設ほか

参加者：6名

「裏方スタッフになってみよう」では、照明・音響・道具・衣裳を体験できるワークショップと少しバックステージツアー的な要素を取り入れた内容になりました。ホワイエからスタート、樋口さんのアテンドで楽屋エリアに進みダンサー・俳優が準備している楽屋を覗く、客席を進み迫アップ体験、舞台上に上がって幕ダウン&暗転体験、ダンサー（コンテンポラリー）と俳優（ひとり芝居）それぞれのデモを見るが、音も照明も道具も無い状態。足りないものを感じたところで、2チームに分かれてそれぞれの製作をし、最後は発表しあいました。午前の子ども対象（小3～6年生）では、限られた時間の中にも関わらず、作品として見られる出来になり、前のめりで操作卓を一生懸命操作する子もいました。



---

ワークショップ④「演劇のお仕事体験プログラム」裏方スタッフになってみよう！一般対象

12月21日（日）14:00～16:00

会場：釜石市民ホールTETTO ホールAおよび楽屋施設ほか

参加者：3名

午後は中学生以上一般対象。内容は午前中と同じでしたが、当日キャンセルが有って人数が少なかった分、より内容の濃い体験となり、プロ顔負けの舞台セット・演出の舞台が出来上がりました。参加者からは、裏方がどんな役割を担っているのか、重要性を学ぶことができた等の感想がありました。樋口さんのアイデアにより、舞台上を幕で仕切り、上下方向に長く奥行きのある演技エリアになり（操作卓下手側）、ホール舞台スタッフにはそれに対応するように照明・音響を仕込んで貰い、モダンなステージを作り上げることができ、ホールが持っているポテンシャルを一つ発見することができました。



## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

釜石市には40年近く親しまれてきた市民参加型演劇「釜石市民劇場」という演劇を継続してきた土壌があるものの、それが市全体に波及して地域の文化として形成できていない＝参加する人たちが固定してしまっているほか、それに対する市の補助金が減少、中心メンバーの高齢化という問題や、ホールがそれに対してサポートや育成事業に取り組むことが出来ていないという、事業制作面での課題や気持ち的な壁もあり、それらを乗り越え演劇育成事業に取り組みたいという思いがありました。またホールがまだ新しいこともあってか、音楽事業を中心に出演者やプロモーター側からお声掛けしてもらうことが多く、音楽の育成事業は元々蓄積が有ったことから音楽事業に偏ることが多いことも課題で、ジャンルの幅を広げたい、もっと中高生に対して育成事業がやりたい、より地域に貢献できる施設になりたい、そういった課題解決のキッカケとなることを期待してこの事業に参加しました。

### ●企画・実施において苦労した点

担当者の制作業務の遅れから、全体研修会の時に固めた実施日程を大きく変更することになりました。また、アウトリーチ訪問先の交渉に時間が掛かってしまいましたが、最終的にはアウトリーチ事業に理解の深い先生がいる学校に2コマ受け入れてもらうことで、訪問先を決定することができました。ただし当初は訪問先として考えていた、問題を抱えている学校やこれまで訪問したことが無い支援学校にもアプローチをしましたが、実現することはできませんでした。学校行事（修学旅行等）と重なっていたことが主な要因ではありましたが、アウトリーチ事業に対する学校側のハードルや効果の高さ等、理解度を深める機会をもう少し増やせたら良かったと思います。公募ワークショップでは、初めて実施する内容だったこともあって事業担当者の中で広報の方向性を固めるのが遅かったこともありましたが、参加者集めに苦労しました。それぞれワークショップ内容が濃い内容で面白かっただけに、その面白さを伝える“もう一步”を考えることが出来ればと反省しています。

### ●プログラムを実施した成果

小学校アウトリーチでは、終了後の学校での振り返りで先生方がとても目を輝かせていました。「普段の学校生活では見られなかった児童の一面が見られた」「新しい関係性が生み出されていた」等、元々コミュニケーションが悪いクラスではありませんが、新しいコミュニケーションが生まれていたように思われます。また、これまで取り組んでこられなかった演劇アウトリーチの良い事例として経験を蓄積することが出来ました。公募ワークショップでは、地元演劇関係のキーパーソン・団体との関係構築、その後のそれぞれの活動において関係性を深めること、人材の発掘、ホールを中心とした街の活性化に貢献できるアイデアや取り組みの構想を作ること等の成果が得られました。またホールの使い方のポテンシャルも上げることができたと思います。

### ●今後の展望

岩手県沿岸地域に概ね共通する問題ですが、地域の就職および進学先や経済的な問題で若い世代の大半は、一度は地元釜石を離れざるを得ない状況です。そのような状況なので、高校を卒業するまでの間にホールで取り組んだことや経験したこと、またはホールがアウトリーチで行った経験がそれぞれの記憶に残ることで、釜石市⇄市民ホール⇄いつか戻ってきても良い場所として認識してもらえるように、普及育成に努めていきたいと思えます。それには演劇の持つポテンシャルが必要であり、今回協力いただいた市民演劇団体やタレント養成事務所、公募ワークショップ参加者と活発に連携しながら事業をしていきたいと思っています。具体的なアイデアとしては、小学校アウトリーチ・スタッフワークショップの継続、ホール演劇部の立ち上げ等を考えており、それを実施するための予算や経済的な裏付けを急がなければと思っています。

### 劇場を豊かにするのは人である

樋口ミュ

釜石市民ホール TETTO のすぐそばの小さなビルの外壁に、津波の高さがここまで来たという印が記されてあった。二階の高さよりも高かった。うっかりと見過ごしてしまいそう。けれど確かにここまで津波はやってきた。TETTO は2017年に開館。光がたくさん入るとても素敵な劇場。まだ新しさが残っていた。

担当の中村さんは何度かのミーティングを経た後にこう言った。

「子どもたちの未来のためにということで事業目的を決めます」

中村さんの考えをもとに、必要なことを細分化すると以下のような項目が浮かび上がる。

- ・“子どもたち”の具体的な対象は小学校～高校
- ・演劇に携わってもらえる人材への種まき
- ・ホールがまた戻ってきたいと思ってもらえるような場所に

さらにこの考えをもとにワークショップの内容を詰めていき、一回目派遣は小学校へのアウトリーチ、劇場職員へのインリーチ、地域の大人たちに向けた未来を考える未来会議ワークショップ、二回目派遣は作家になってみようワークショップ、スタッフを体験できる劇場バックステージツアーワークショップを実施。

劇場全体を使ってのバックステージツアーは、TETTOのテクニカルスタッフの皆さん（それ以外のスタッフさんも手伝って）が総出で力を貸してくださった。短い短編（お芝居編とダンス編の2作品）を照明も音響も衣装も小道具もなしで一度参加者に観てもらい、そのあと衣装や小道具を作り、照明や音響のフェーダーを操作してもらった。普段は会うことがないだろうスタッフが直接、照明や音響、劇場制作の話をする中で、これはスタッフ体験であると同時に職業体験にもなった。地元で劇場があるということは、職業の選択肢を広げることにも繋がるのだと感じた。参加した子どもたちの「こんな風にしたい！」という思いがたくさん溢れていた。このワークショップで大きな手助けをしてくださったのは、東北で初めてのタレント事務所を立ち上げ、さらにこのTETTOを拠点にしたC-ZEROアカデミーを立ち上げた菊池由美子さんと、釜石を拠点に活動する劇団代表の小笠原景子さんである。お二人は集客にも尽力してくださった。未来会議ワークショップにも参加してくださり、「お金のことを一切気にしなかったら、TETTOでどんなことをしたいか」という内容を釜石の大人たちで議論した。思った以上の人数が参加してくださってそれにも驚いた。できる、できないが重要なのではなく、何をしたら面白いのか。すぐに実装するものではない内容を、現実的な大人たちが一生懸命に話し合うこの時間こそが重要なのだとあらためて感じた。とても不謹慎な言い方をすれば、くだらないことを必死に考えられる大人たちがいる地域こそ、子どもたちに未来があると思えたワークショップだった。

土台はあると感じられた。人材もとても豊富だと感じられた。何よりも拠点になる劇場がある。そして劇場は建物のことではなく「人」であると私は心から思う。今回様々なワークショップを無事に実施することができたのは、担当である中村仁彦氏の存在があったからに他ならない。彼がいるから、菊池さんと小笠原さんも手伝おうと思ってくれたのだと私は感じている。どの劇場も今は資金に苦しみ喘いでいる。だからこそ人のつながりと力を資源に変えてほしいと願う。彼に声をかけられたなら、私はできる限りの力を使ってきっと釜石に赴くだろう。

## せんだい演劇工房10-BOX（宮城県仙台市） 実施データ

実施団体	公益財団法人仙台市市民文化事業団
実施ホール	せんだい演劇工房10-BOX
担当者	松本俊幸、工藤光紗、大沼恵美
実施期間	下見派遣 令和7年4月18日（金）～4月19日（土） 1回目派遣 令和7年5月14日（水）～5月17日（土） 2回目派遣 令和7年10月16日（木）～10月19日（日）
アーティスト等	アーティスト：福田修志 アシスタント：田中俊亮、松本恵
<p>■下見派遣内容</p> <p>4月18日（金） 旭丘小学校WS下見打合せ、卸町企業訪問、事業打合せ 4月19日（土） 卸町ふれあい市、能BOX下見、企画打合せ</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>5月15日（木） 8:30～12:05 「物語を生み出すワークショップ」 仙台市立旭丘小学校（3年生児童を対象） 18:00～19:00 卸のまち劇場ワークショップ・取材をやってみる（在仙演劇関係者を対象）</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>10月17日（金） 8:50～12:40 「物語を生み出すワークショップ」 仙台市立三条中学校（1年生生徒を対象） 19:00～21:30 ワorkshop「アウトリーチってどうやるの？」 10月18日（土） 10:00～16:00 卸町ふれあい市特別企画「おろしのまちの紙人形劇」ワークショップ</p>	

## スケジュール

派遣 月日	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
	4/18（金）	4/19（土）	5/14（水）	5/15（木）	5/16（金）	5/17（土）	10/16（木）	10/17（金）	10/18（土）	10/19（日）
8:00		移動		移動				移動	移動	
9:00		卸町春の ふれあい 市視察		旭丘小WS	移動	移動		三条中WS	卸のまち 劇場WS	移動
10:00					打合せ					
11:00										
12:00	移動			フィードバック 打合せ						
13:00		卸の まち劇場 WS打合せ			卸町企業 取材①、②			フィードバック	卸のまち 劇場WS	
14:00										
15:00	旭丘小 打合せ						移動	卸の まち劇場 WS稽古	卸のまち 劇場WS	
16:00				三条中 打合せ	卸町企業 取材③					
17:00	卸町企業訪問		移動				打合せ			
18:00	卸町WS 打合せ	移動		取材WS	フィードバック 打合せ				全体 フィードバック	
19:00	移動			移動			卸の まち劇場 WS稽古	WS「アウ トリーチ ってどう やるの？」	移動	
20:00			打合せ							
21:00							移動	移動		

## プログラム詳細

### 物語を生み出すワークショップ

5月15日（木）8:30～10:10（3年2組）、10:30～12:05（3年1組）

会場：仙台市立旭丘小学校 視聴覚室

参加者：73名（1組38名、2組35名）

旭丘小学校3年生を対象としたワークショップを実施した。前半はアシスタントによる演劇を鑑賞していただき、演劇に興味を持ってもらう。それからワークショップの流れ（目標）の説明があった。その後コミュニケーションゲームを行い児童の身体と頭をほぐした。後半の創作では、宝物を探すという設定で、舞台設定、登場人物、探すものをグループごとに話し合っ

て決めていき、最後に創作劇の発表を行った。参加した児童が楽しそうに自分の台詞を考えたり、お互いのアイデアを楽しんだりしながら、劇を創作していく様子が印象的だった。

担任の先生からは普段人前で意見を言わない児童も積極的に発言している様子などが見られたことが報告された。

参加児童からのアンケートでは、「皆で劇を作り発表したことがとても楽しかった」という声が多く集まり、皆で協力して創作を楽しむという目的が達せられたと感じた。



### 卸のまち劇場ワークショップ・取材をやってみる

5月15日（木）18:00～19:00

会場：せんだい演劇工房10-BOX box-6

参加者：2名

仙台で活動する演劇人を対象として、第2回派遣で実施予定の「卸のまち劇場」の戯曲を作成するための取材ワークショップを実施した。

今回の取材で気を付けてほしいこと、必ず聞いてほしいこと、取材にあたっての注意点などの説明のあとに、ワークショップ形式で模擬取材を実施した。

相手の話を十分に聞き出し、自分の中でストーリー展開する過程を体験することで、翌日に行った企業取材のシミュレーションを行った。

このプログラムを実施することで、取材を行う際に必要なコミュニケーションを実際に体験していただくことができた。



### 物語を生み出すワークショップ

10月17日（金）8:50～10:40（1年1組）、10:50～12:40（1年2組）

会場：仙台市立三条中学校 武道館

参加者：1年生54名（1組28名、2組26名）

三条中学校1年生を対象としたワークショップを実施した。プログラムは5月に実施した旭丘小と同様であったが、生徒たちへの説明など中学生向けの内容となった。

思春期を迎えている年齢の生徒たちが対象ということで、彼らがどのように参加するのか興味深いところであったが、講師、アシスタントの皆さんのファシリテートが素晴らしく、全員が楽しんで参加してくれていたことと、劇を創作する時間では、お互いの意見をより聞き合いながら話し合いが進んでいく様子が、印象的だった。

参加した生徒からは、最初は何をするのかわからなかったが、普段接点の少なかったクラスメートとコミュニケーションを取るきっかけになったこと、仲間と一緒に創作ができたことがとても楽しかったとの声が多くあった。

先生からは、子どもたちの新たな一面が見られたことに加えて、普段団体での行動が難しい生徒が、皆との打ち合わせに参加して一緒に劇を演じていたことがとても嬉しかったとの感想をいただいた。

終了後の生徒たちの笑顔がとても良かったことはもちろんだが、小学生と中学生それぞれを対象にした同プログラムの実施を見ることで、進行や、参加者を引きよせるテクニックなど、ファシリテーターの力量を強く感じた。



### ワークショップ「アウトリーチってどうやるの？」

10月17日（金）19:00～21:30

会場：せんだい演劇工房10-BOX box-1

参加者：10名

演劇、舞踊、音楽などでアウトリーチ事業に関わる制作者、アーティストを対象としたワークショップを実施した。

参加者は、小中学校で実施した「物語を生み出すワークショップ」に実際に参加することで、ワークショッププログラムを制作する際の考え方や、実際の進行の仕方を体験した。

仙台市は震災以降アウトリーチ事業を継続して行っている土壌があるが、アウトリーチ事業について関係者同士で考える機会は少なかったと思われる。質疑応答でも多くの質問があり、参加者の関心の高さを強く感じる事ができた。

アンケートでも、導入部分のテクニックからプログラムの進め方まで、それぞれの参加者が普段のアウトリーチ活動について様々なことを感じたことがうかがえた。



卸町ふれあい市特別企画「おろしのまちの紙人形劇」ワークショップ

10月18日（土）

- ① 10:00～11:00「たべること」
- ② 13:00～14:00「チャレンジ」
- ③ 15:00～16:00「わたしの仕事」

会場：せんだい演劇工房10-BOX box-2

参加者：①子ども5名（大人5名）、②子ども5名（大人5名）、③子ども5名（大人10名）

毎年2回、卸町で開催されている「卸町ふれあい市」の特別企画として10-BOXを会場として、5歳から小学6年生のこどもを対象としたワークショップを実施した。

このワークショップは、在仙の演劇人が実際に卸町の企業で働く人取材して書き下ろした戯曲を用い、白紙の紙人形で人形劇を鑑賞した後、子どもたちがそれぞれの創造性を膨らませながら紙人形の台紙に顔や洋服など、色を塗って完成させる。最後に作成した紙人形が登場する紙人形劇を上演、鑑賞するというプログラムであった。

最後の上演では自分がデザインした紙人形が登場するととても喜んだ様子で人形劇を鑑賞していた。

また、作成した紙人形は参加者にプレゼントしたのだが、参加者の家族から、その後、家に帰っても一人で創造性を膨らませながらオリジナルの人形劇ごっこをして楽しんでいたという話を聞いた。

このプログラムを通して、問屋街である卸町に立地する当施設が、同じ卸町に立地する企業とのつながりを模索できたこと、そして子どもたちに来館いただきプログラムを楽しんでもらえたことで、普段、演劇関係者の利用が中心の10-BOXが広く市民と触れ合うことができたのではないかと感じた。



## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

当初提出した事業申込書に記載のとおり

- ・地域の若い人材に「演劇のつくりかた」を体験的に理解してもらうため、力のある演出家や俳優の協力を仰ぎたい。
- ・当財団職員（および仙台市職員）が演劇に対する理解や知識を深めることで、施設利用者により良いサービスを提供し、より効果的な演劇事業を推進できるように学びたい。
- ・創作活動の拠点として広く認知度向上や魅力発信につながる事業ケースの参考例やアイデアを学び、事業実施に活かしたい。またこの事業に参加することで、全国で演劇事業に取り組む他団体、施設職員と交流を図り連携していける関係性を構築したい。

という考えを軸に、私たち自身がワークショップ事業を学ぶ機会になればと思い申請させていただいた。

### ●企画・実施において苦労した点

前年度に担当していた職員が人事異動となり、引継ぎを受けての実施となった。

下見が4月18日、19日、第1回目の実施が5月15日、16日と年度がかわってすぐの実施となったこと、さらに企画内容について方向性の修正が必要となったことで、短期間に多くのことを決めていかななくてはならない状況となってしまった。短期間での企画検討ということで、講師にも負担をかけてしまった。

また、最後の「おろしのまちの紙人形劇ワークショップ」では予想以上に集客に苦難した。それにより講師はじめ関係者の皆様にご心配をかけてしまった。

### ●プログラムを実施した成果

各プログラムでの参加者に楽しんでいただけたことは何よりの成果であると考えている。

これは上記のような状況の中でもしっかりと事業に取り組んでいただいた講師の福田修志さんたちのお力によるものと深く感謝している。

担当させていただいた財団職員にとっては、福田修志さんのワークショップを実際に見て、さらにその作り方、考え方についてお話を伺い、考える機会にできたことはとても勉強になった。

集客には苦労したが、10-BOXを会場とした紙人形劇ワークショップでは、卸町地域の企業とのつながりや、普段来所しない客層の獲得など、ホールが取り組むべきと考えられてきた事項に挑戦できたことが成果だったと考えている。

### ●今後の展望

今回の事業に参加できたことで、これまで財団で企画してきたワークショップ事業や、震災後から取り組んでいるアウトリーチ事業について改めて考えるきっかけになったと考えている。

また、「おろしのまちの紙人形劇ワークショップ」で取り組んだ卸町地域との関係性を深めていく試みや、ふだん演劇に接する機会の少ない市民の皆様に10-BOXへ足を運んでいただき、そして演劇をお楽しみいただくような取り組みも、今後検討していければと考えている。

### いつか花開く事を願って

福田修志

東北で一番大きな都市・仙台市。伊達政宗公が治めたその街は、現代的な街並みの中に、しっかりと文化が息づいている街で、伝統文化も現代アートも大切にされている、という印象を受けました。そんな仙台にある『卸町』という卸業者が集まる区域の中に、『せんだい演劇工房10-BOX』という劇場がありました。

当初のプランでは『卸町』との連携を深めたいという思いや、「事業団職員の方々の意識向上」などを考えていたのですが、年度が替わるタイミングで担当者が替わり、新しい担当者さんと企画を考え直す所からのスタートとなりました。そこから前担当者のアイデアも活かしながら、新担当者と事業団側とで目指したのは、「劇場の認知度を高めること」と「次の世代の担い手となる子どもたちがこの劇場に集うこと」でした。

実施した企画は大きく分けると三つで、アーティストが学校へ行き、子どもたちに楽しんでもらう「演劇アウトリーチ」。アウトリーチのプログラムについて知ったり考えたりする「演劇関係者対象のワークショップ」。そして、卸町と劇場とが連携する子ども企画の「おろしのまちの紙人形劇ワークショップ」になります。

「演劇アウトリーチ」は小学校と中学校へ行きました。どちらの学校の子どもたちも、とても素直な子が多く、『表現をする喜び』の種（タネ）のようなものは蒔いて帰れたのかなと思います。仙台市は既にアウトリーチを行っている街でしたので、子どもたちはもちろんのこと、学校側や演劇関係者の方々が、どういう反応をするのだろうか？ と思っていたのですが、とても好意的に受け入れていただけた事が印象的でした。また、「演劇関係者対象のワークショップ」では、地元の演劇人の方々が「参加した事で、演劇アウトリーチの考え方や作り方を学ぶ事が出来た」と言ってくれたので、とてもホッとしています。これから先、地元のアウトリーチを担って行くのは、彼らになるので、彼らの心に響く何かがあったのであれば、とても良い時間が作れたのだと思います。

そんな彼ら地元演劇人の方々には、本当に色々な形でご協力をいただきました。「おろしのまちの紙人形劇ワークショップ」では、卸町の企業さんたちに対する取材に始まり、戯曲を書いてもらったり、出演してもらったりと、企画が二転三転する大変な中、参加していただき本当に有り難かったです。

ただやっぱり、反省をすべき所もありまして、上手く事業団側とコミュニケーションが取れなかった事が心残りです。結果的には、公園で遊ぶ子どもたちを引き込み、ふれあい市の一つの企画として成り立つ事は出来たのかなとは思いますが。これまで見た事がないような、子どもたちで溢れている光景を見る事は出来ました。「劇場の認知度を上げたい」「子どもに訪れて欲しい」という目的は果たせたのではないかとはいいますが、最後まで「劇場と一緒に仕事をした」という気持ちには残念ながらならず、もう少しコチラから積極的に働きかけていれば良かったのかもしれないと思うばかりです。

劇場の仕事って、とても人間臭くて、面倒で、煩わしい仕事ばかりだと思いますが、だからこそ、「お互いに気持ちよく仕事をするために何をすべきか？」をお互いに考えることが大事なのだと、改めて思う機会となりました。それも含めて、種は蒔けたと思いますので、いつか花開く事を願っています。

## FSXホール（東京都国立市） 実施データ

実施団体	公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団
実施ホール	FSXホール（くにたち市民芸術小ホール）
担当者	斉藤かおり、長瀬円美
実施期間	下見派遣 令和7年6月2日（月）～6月3日（火） 1回目派遣 令和7年8月6日（水）～8月9日（土） 2回目派遣 令和8年1月26日（月）～1月29日（木）
アーティスト等	アーティスト：越智良江 アシスタント：関根好香、大石丈太郎 アドバイザー：岩崎正裕（2回目）
<p>■下見派遣内容</p> <p>6月2日（月） 打合せ、施設下見、郷土文化館ほか市内視察、国立市立国立第一中学校演劇部打合せ、中高生インタビュー 6月3日（火） 施設下見、桐朋中・高等学校打合せ、国立市生涯学習課長打合せ</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>8月7日（木） 10:00～12:00 国立市立国立第一中学校演劇部アウトリーチ① 19:00～21:00 Z世代の自分推し活！ワークショップ 8月8日（金） 10:00～12:30 国立市立国立第一中学校演劇部アウトリーチ② 15:00～17:00 国立市役所インリーチ</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>1月27日（火） 10:00～11:40 教育支援室さくらアウトリーチ 15:40～17:30 桐朋中学校・高等学校アウトリーチ 1月28日（水） 18:30～20:30 Z世代本格演劇ワークショップ</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
月日	6/2（月）	6/3（火）	8/6（水）	8/7（木）	8/8（金）	8/9（土）	1/26（月）	1/27（火）	1/28（水）	1/29（木）
9:00	移動	移動		打合せ	打合せ					
10:00	全体打合せ、施設下見	施設下見		国立一中演劇部アウトリーチ①	国立一中演劇部アウトリーチ②・振り返り	2回目派遣に向けた打合せ		教育支援室さくらアウトリーチ	振り返り	2回目・全体振り返り
11:00										
12:00					振り返り	移動	移動			移動
13:00		桐朋中・高打合せ								
14:00	郷土文化館ほか視察	市生涯学習課打合せ/まとめ打合せ	移動	打合せ	市役所インリーチ		全体打合せ	桐朋中・高打合せ		
15:00										
16:00	国立一中打合せ		全体打合せ	打合せ	振り返り			桐朋中・高アウトリーチ		
17:00										
18:00		移動								
19:00	中高生インタビュー			Z世代自分の推し活ワークショップ	1回目派遣振り返り					Z世代本格演劇ワークショップ
20:00	1日目振り返り								振り返り	
21:00										

## プログラム詳細

国立市立国立第一中学校演劇部アウトリーチ①②

① 8月7日（木） 10:00～12:00 ② 8月8日（金） 10:00～12:30

会場：国立市立国立第一中学校 音楽室

参加者：①15名 ②16名

元気で仲の良い部員たちは、この活動を楽しみにしていたとのこと。1日目、いくつかのワークで慣れていきつつ演劇の大切な要素・・・伝えること、他の人の面白い表現を自分もストックすること、相手の言いたいことを推測して受け取る、などを体験した。後半は「桃太郎プロジェクト」に着手。グループ毎に紙芝居を見て疑問に思うことをきっかけにストーリーを考え始めた。

2日目「輪になり人の波動を感じて動く」で身体と言葉でのやり取りの柔軟性をつくった。1時間弱で形にした作品を発表し、教室内に笑いと拍手が。越智さんは振り返りの時間をとるところに設け、生徒たちの気づきややる気を促しながら進めていた。全体に闊達な印象がある中、個性も見極めつつ全員が参画意識を高められていったように感じた。

顧問の先生は自身で台本を書き、生徒たち一人一人を見つめながら熱意を持って部活動運営に当たっておられる。今回の受け入れも先生のご尽力があって成立したと感謝している。



Z世代の自分推し活！ワークショップ

8月7日（木） 19:00～21:00

会場：FSXホール

参加者：4名

Z世代（中学生～20歳くらいまで）を対象に自分の意外な一面を見る、自分の良さに出会うことを目的とした。集まったのは中1生3名、高3生1名のいずれも女子で、演劇部に所属しているか、何らかの舞台経験があった。まずは椅子取りゲーム、ジェスチャーしりとりを通じて参加者同士の気合合わせ、伝える難しさを味わった。続く「質問3つで趣味を推測し、さらに身体を動かす度合い順を当てる」ワーク、「短文を一つだけ選びそれしか発話できない状況で他者との距離感、気持ちのやり取りを図りながら動く」ワークではすでに演劇的な動きとなっていた。

終了後のアンケートにはそれぞれの気づきや次回ワークショップへの期待が現れていた。



### 国立市役所インリーチ

8月8日(金) 15:00~17:00

会場: FSXホール

参加者: 16名

日頃、市民とのやり取りや職員同士での世代間ギャップを感じている市役所職員に向けた研修(インリーチ)として実施。財団からも同事業担当2名が参加した。

「自分が伝えたいことをちゃんと伝えられる表現」に気づくことが全体のテーマであったが、ゲーム感覚のワークに世代・役職を超え新鮮さと気づきにあふれた時間となった。「伝わらない前提で話す」「表情も大切」など、具体的なメソッドに目からうろこことの感想であった。

市の担当職員が打合せ時から本当に楽しそうな様子だったのが印象的だった。内容はもちろん、ふだん出会うことが少ない演劇人との協働が組織の活性化に功を奏することをうかがわせた。



### 教育支援室さくらアウトリーチ

1月27日(火) 10:00~11:40

会場: FSXホール

参加者: 3名

当日の開始ぎりぎりまで参加人数が読めない状況ではあったが、1週間前に見込まれていた3名で実施。劇場そのものへの理解と興味を促すため『注文の多い料理店』を題材に俳優・音響・照明の3ポジションに一人ずつ配置し短い舞台作品を上演した。

俳優についての説明、音響、照明の操作卓に全員が触れたあと、希望するポジションを決定。それぞれに専門家がマンツーマンでついたが、「初心者ならではの発想・操作方法」「勘の良さ」に感心させられた。各ポジションとの連携が必要であることに自ら気づき相談し合うなど、積極的に取り組んでいた。

振り返りでは先生が「お母さんが見たらきっと泣いちゃう」とおっしゃり、日常を離れた活動の意義を感じた。



桐朋中学校・高等学校アウトリーチ

1月27日（火）15:40～17:30

会場：桐朋中学校・高等学校 国語教室

参加者：16名（中1：6人、高1：9人、教員：1人）

5名程度と聞かされていた参加者が開始直前で一気に増えた。友達に引っ張られて来た風の生徒も多く、興味がどれほどあるのか図りかねたが、皆積極的に、そして中・高の隔てなく活動していた。

ジェスチャーしりとり、ハンドパワーでの「人彫刻」などに続き、ひとりの一つだけの動きに他の人が加わることで「シーン」を生み出すことを体験した。最後のワークは座っている人のしぐさで誰を待っているかを推測し、その誰かになって声をかけていく「カフェ」で、想像力と自ら関わっていく勇気を活かしつつ笑い溢れるひと時となった。先生からは「観られている状態で自分から出ていくことができない子が多いが、よく動いていた」とのコメントがあった。



Z世代対象！プロの演出家とともに

本格演劇ワークショップ～創って、壊して、また創る～

1月28日（水）18:30～20:30

会場：FSXホール

参加者：20名

中1から30代まで、定員の20名が参加。高校等の演劇部員やすでに演劇人として活動しているなど、多くが演劇（舞台）経験者だった。愛の手帳の保持者や車いすユーザー参加者も溶け込み、時に助け合って進めていた。

身体と心をほぐすワークの段階から皆積極的に動き、あっという間に闊達な雰囲気が出来上がった。5つのグループに分かれた『おやすみのひ』では、それぞれの休日の過ごし方を動きにしな一人ずつ場に加わりシーンを作ったが、加わる順番を変えるなどしてブラッシュアップを繰り返していった。それは演劇の創作過程手法の一つである「創って壊してまた創る」の本格的な演劇体験であった。発表時には音楽に合わせて次の日の朝までのシーンが自然に作られ、それぞれの個性も垣間見られた楽しさに溢れていた。



## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

- ・これまで実施したことがない演劇のアウトリーチおよびワークショップを行いたかった。
- ・演劇事業の担当をしたことがない職員に経験してほしい。

### ●企画・実施において苦労した点

#### 【アウトリーチ】

- ・活動先がなかなか決まらず、事業申請時の希望がかなわなかったこと  
退職してしまった前任職員の意思を継いで公立中学校通常級での実施をめざし希望校を募ったが反応がなく、検討してくれそうな校長先生に直接談判するも次年度のカリキュラムが決定し組み込めない、との回答であった。支援級であれば可能性があると言われ説明に向かったが、数日後に断られ、これまで以上に難航した。
- ・参加人数の確保と、把握の難しさ  
さくら教室と桐朋中・高で事前に参加人数が少ないと知らされ、これまでのアウトリーチでは経験がない心配に見舞われた。結果的にはさくら教室では参加者に丁寧に対応ができ、桐朋中・高は開始直前にいきなり多くの参加者がおしよせ活動は盛り上がった。いっぽう、事前に参加人数の確保に向けた積極的な働きかけができたか、突然の参加者数の増減に対して対応策を持っていたか、などの課題が浮き出された。

#### 【ワークショップ】

- ・応募者の少なさ  
1回目では応募者が少なく、過去の各種活動参加者に声掛けて集めた。広報への作業量の欠如が原因と受け止めた。2回目では、チラシ作成にアーティストと地域創造から多くの意見・指摘をいただき反映させることができたのと、学校演劇部を中心に配布し定員を上回る応募があった。また、1回目の参加者が全員2回目にも参加しており、内容に満足していたことが伺えた。

#### 【全体】

- ・事業制作・進行の不備  
担当者の作業進行の遅れ、過ちの多さが露呈した。  
作業が後手後手になることや、打合せた内容が抜け落ちてしまうことの繰り返しだった。

### ●プログラムを実施した成果

- ・公募型で事業実施の際、集めるのが容易ではないZ世代（若い世代）による、当館演劇事業への関心度が決して低くないと実感できた。「このホールでの活動が楽しかった、有意義だった」とそれぞれが感じ、認識してもらえたことが広がってほしい。また、その実感を今後のホール事業に活かさねばと思っている。
- ・個人的なことだが、ひとつの事業にじっくりと向き合う姿勢が欠けていることを痛感した。個々の事業を企画・実施する意義を全うするために、事業の再編を行うべきであると認識した。

### ●今後の展望

- ・今回の各活動参加者にはいずれも、体験したことを大切に持ち帰ってもらえたと思う。ホールとしては今後何らかの形で継続していかないと、せっかくの体験をただの思い出にされてしまう。参加者がときどき当ホールの情報をチェックし、次なる機会を心待ちにもらえるような演劇等の事業を継続していくべきと思った。
- ・地域に根差したホールとして、市民の活動参加は不可欠であるのはいうまでもない。「リージョナルなホール」とは何なのか、当館ならではの在り方を築きたいと思った。ホールに来たことがない市民は数多く存在する。それらの人々に、ホールと一緒にできること、ホールに来てみたら体験できることの可能性を伝えたい。そのために当館とのご縁ができた市民とともに活動を進めていければと考えている。
- ・今後このホールがやるべきことは何であるのか、再考する時期にある。これまでの実績を活かしながら的確に課題を捉え、それに向け確実に成果を出すための事業の再編集が必要だと思う。事業の統合や運営方法の見直しを進めていきたい。

## 顔の見える「近さ」を生かして

越智良江

東京都国立市は人口、76,000人。都内で2番目に面積が小さい。その中に生活機能と利便性が凝縮され「ちょうど良い」という言葉がぴったり当てはまるようなコンパクトシティという印象。FSXホールは、中心街ではなく、市の南側で住宅街エリアにある劇場でした。

数多くの企画を実施されていますが、リージョナル開始間際に職員が退職、人手不足の中でのスタートに。しかし、「若い人たちに。さらにはリージョナルの特性を生かし、コミュニケーション等が苦手な人たちに実施したい」と希望があり、中学生から30代程度を対象にした公募ワークショップ、中学（演劇部）・高校（希望者）へのアウトリーチ、学校に登校できない生徒が通う教育支援室「さくら」とのワークショップと、若年層に特化した内容が主になりました。

若い参加者集めにはどこも苦戦します。どんなアプローチが対象者に届くのか。今回は1回目・2回目派遣の両方に公募ワークショップを入れ、広報の打ち出し方を変えました。1回目は演劇の敷居を低く、イラストと文をポップに。2回目は「本格演劇ワークショップ」と銘打ち、テイストを硬めに。結果は圧倒的に「本格演劇ワークショップ」の反応が良く、目からウロコの発見になったと思います。

1回目の参加者は4名。2回目の「本格演劇ワークショップ」にも全員が参加してくれました。グループの中で意見やアイデアを出し合い、ブラッシュアップを繰り返して発展させていく仕組み。異なる基準や発想を持つ他者とのクリエイションが、いかに豊かで難しく楽しいかを体験してもらうことを大切にしました。

国立一中演劇部でのアウトリーチでは、学年・性別に関係なくどんどん創り上げていく様子が印象的でした。普段は前に出るタイプではない生徒だったので驚いた、とお聞きし、普段とは違った自分が表現できる時間になったのであれば良かったと思います。

桐朋中高（参加希望者）へのアウトリーチは20名ほどで、男子校ならではの盛り上がりのワークショップに。都内トップクラスの中高一貫男子進学校で、きっと演劇とは接する機会もあまりなかったのでは。大人になって様々な場所での理解者となる種を撒いたような感覚です。紛れもないFSXホールの資源であると感じました。そして、「あの先生が居くださるからアウトリーチができる」、とはどこでもあって、そこからいかに味方や理解者を増やしていけるかですが、今回のワークショップ参加者に教員が入ってくださったことは大きい。これは男子校の雰囲気や特質が大きく関係しているとはいえ、校内に1名の理解者が確実に増えたということで、実は担当の先生は直前まで参加人数が集まらず、多分一桁だと申し訳なさそうにお話くださっていました。もしかしたら学校にとっても、嬉しいことだったのかもしれない。

教育支援室「さくら」のワークショップでは3人の参加者が、俳優・照明・音響チームに分かれて「注文の多い料理店」をミニ公演。発表では先生方から大きな拍手が。「さくら」のように、劇場も居場所の一つとなれる可能性がある、漢方薬のように心身にじわりと染みていくあたたかい薬のような存在であることを伝えられたら嬉しいです。また、ホールのテクニカルスタッフの力添えが素晴らしく、引き続き劇場と「さくら」との良い関係が続き、入れ替わっていく子どもたちにも実施できていけると良いと思いました。

若年層向けに加え、市職員関係者とのインリーチも開催。市役所の担当の方も熱意があり、ホールも進めやすかったのではと思います。劇場と市役所との関係から、それが指定管理者内部にも広がって参加していただける日が来ることも期待して。

国立市の持ち味はなんといっても「近さ」であると思います。街が小さいからこそ、手が届く・相手の顔が見える、その近さ。「この人がいるこの劇場」が地域の大切な存在になれるかもしれない、という希望を感じた日々でした。

昨年秋には職員が増えたという吉報。劇場の成果や課題を共に出来る仲間と楽しみながら、隣人としての劇場に向かって、ぜひ事業を継続してほしいと願っています。

## ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（三重県鈴鹿市） 実施データ

実施団体	鈴鹿アートライフデザイン
実施ホール	ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）
担当者	清水智奈美
実施期間	下見派遣 令和7年4月24日（木）～4月25日（金） 1回目派遣 令和7年7月24日（木）～7月27日（日） 2回目派遣 令和8年1月16日（金）～1月19日（月）
アーティスト等	アーティスト：田上 豊 アシスタント：1回目/古賀弥生、近藤のぞみ 2回目/加藤碧、大杉佳乃子
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>4月24日（木） ホール下見、関係者との挨拶、全体打ち合わせ 4月25日（金） 1回目派遣打ち合わせ</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>7月25日（金） 13:30～15:30 ①演劇経験者向けワークショップ『アート好き&amp;演劇関係者のための体験と学びのワークショップ』 18:00～20:00 ②鈴鹿市職員&amp;文化振興事業団向けワークショップ『演劇を活用したワークショップ』 7月26日（土） 10:00～12:00 ③一般市民（演劇未経験者）向けワークショップ『演劇超入門』 14:00～16:00 ④会館職員向けワークショップ</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>1月17日（土） 13:00～16:00 ⑤一般（演劇未経験者）向け会館周遊型ワークショップ『すずぶんサーキットシアター』 1月18日（日） 13:00～16:00 ⑥一般（演劇未経験～初心者）向けワークショップ『みんなでつくるぞ!!!演劇ワークショップ』</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
月日	4/24（木）	4/25（金）	7/24（木）	7/25（金）	7/26（土）	7/27（日）	1/16（金）	1/17（土）	1/18（日）	1/19（月）
9:00	移動	打合せ	移動	準備	送迎	振り返り・ 2回目 打合せ	移動	リハーサル		移動
10:00					準備					
11:00					WS③ 初心者向け 「演劇超入門」					
12:00		休憩	休憩	休憩	移動		休憩	休憩		
13:00	到着	打合せ	移動	準備	準備		移動	WS⑤ 「すずぶん サーキット シアター」	WS⑥ 「みんなでつ くるぞ!!!演 劇ワーク ショップ」	移動
14:00	市民会館見学			WS① 「アート好き&演 劇関係者のた めの体験と学 びのワーク ショップ」	WS④ 「会館職員向 けワーク ショップ」					
15:00	市役所職員、 事業団あいさつ 文化会館到着			送迎						
16:00	文化会館見学、 スタッフ挨拶		送迎	打合せ ・ 準備			到着	休憩	休憩	
17:00			打合せ				打合せ	WS⑤ 振り返り	WS⑥・ 全体 振り返り	
18:00				WS② 「市職員& 文化振興財 団向けWS」						
19:00										
20:00										
21:00										

## プログラム詳細

### 『アート好き＆演劇関係者のための体験と学びのワークショップ』①

7月25日（金）13:30～15:30

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 さつきプラザ

参加者：15名

鈴鹿で演劇活動を行う方を対象としたワークショップを実施しました。会館の事業スタッフも一緒に参加しました。本事業を一過性のものとして終わらせず、会館スタッフを含めて鈴鹿で演劇に携わる方のスキルアップに繋げたい想いや演劇好きが繋がれる場を作りたい想いから企画しました。身体を動かすゲームのようなワークを中心に進み、最後には実施側としての疑問を解消する座談会の時間もありました。はじめ「演劇なんて…」と参加に乗り気でなかった会館スタッフも爆笑しながら参加しており、演劇のワークショップのイメージや効用が担当間で共有できたと思います。地元の演劇関係者からは講師へさまざま質問が飛び出しました。演劇のみならず美術や音楽関係者も参加し、創作活動への刺激となったとの声をいただきました。



### 市職員＆文化振興事業団向けワークショップ『演劇を活用したワークショップ』②

7月25日（金）18:00～20:00

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 さつきプラザ

参加者：16名

鈴鹿市職員と鈴鹿市文化振興事業団を対象にしたワークショップを開催しました。内容はWS①と同じです。会館スタッフだけでなく鈴鹿のまちづくりや文化振興に関わる人々で演劇の可能性を共有し今後の展開を考えたいという意図で実施しました。部署や役職を超えてワークに夢中で取り組み終わるころには参加者に一体感が感じられて少し距離が縮まった気がしました（実際、担当者の体感としても、この事業に参加した市職員の方にはこれ以降、気軽に相談をしやすくなりました）。また市職員の中にも熱心な演劇好きがいることがわかり、心強く思いました。



### 一般市民（演劇未経験者）向けワークショップ『演劇超入門』

7月26日（土）10:00～12:00

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 さつきプラザ

参加者：16名

演劇初心者を対象にしたワークショップを開催しました。内容はWS①・②のワーク＋最後にテキストを使って簡単な創作劇体験ができるワークがセットになった内容でした。最後の創作劇体験は盛り上がり、さつきプラザや周辺の場所をうまく使ったユニークなお芝居が上演されました。前日から引き続き参加した方や、演劇に興味があるが、いきなり劇団に入るのは気後れする…という参加者、亀山や松阪など近隣の市で演劇活動をする方など、10～80代のさまざまな方と出会うことが出来ました。今後演劇の企画をするときのターゲットがイメージしやすくなり、実りの多い時間となりました。



## 会館職員向けワークショップ

7月26日（土）14:00～16:00

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 さつきプラザ

参加者：4名

会館の事業スタッフ4名に対して、今後の企画力向上を目的としたワークショップを実施しました。「芸術文化と地域」「劇場／ホールのアクセシビリティ」をテーマに、アシスタントの古賀さま・近藤さまの講義を聞いた後、参加者でディスカッションを行い、今後どんなターゲットにどんな企画を行いたいのか？をまとめ、発表しました。事業担当者それぞれに関心がある領域が違うことが面白く、演劇の企画だけにとどまらず今後の事業全体に活かせる内容でした。



## 一般（演劇未経験者）向け会館周遊型ワークショップ『すずぶんサーキットシアター』

1月17日（土）13:00～16:00

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 諸施設

参加者：16名（+ボランティアスタッフ9名、会館スタッフ5名）

7月の『演劇超入門』から1歩進み、演技だけではなく演劇創作の楽しさと会館のさまざまな施設の魅力を体感できる特別企画として実施しました。参加者は2チームに分かれ、さつきプラザ・第一研修室・多目的ドーム・音楽室・和室・茶室・陶芸室の諸施設で演劇創作を進め、最後に発表会を行いました。小学生の親子、高校生、大人（20～80代）まで幅広く参加者が集まり、鈴鹿の市民劇団や愛知の大学の演劇サークルにもボランティアスタッフとして参加いただきました。参加者と移動の多さから、スタッフ間の連携の重要性や、会館移動を安全に進めるための気づきなど、たくさんの学びがありましたが、何よりも初対面の参加者全員が夢中で演劇を作る楽しさが素晴らしく、終了後は参加者・スタッフ全員が笑顔で「楽しかったね!」と語り合いました。



## 一般（演劇初心者）向けワークショップ『みんなでつくるぞ!!!演劇ワークショップ』

1月18日（日）13:00～16:00

会場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 音楽室

参加者：19名

鈴鹿近隣で演劇活動を行う方をメインターゲットとし、演劇好き同士が楽しく交流できるワークショップとして実施しました。内容としては、簡単なアイスブレイクから始まり、戯曲創作を体験したあと、簡単な発表会を行いました。今回は19名の参加者のうち半数が10～20代、あと半数は30～50代となり、演劇好きという共通項を持つものの、普段交流のない世代や団体が垣根を越えて創作を楽しむ機会となりました。休憩中や終了後にも和気あいあいとした交流が見られました。車いすの参加者も1名居られ、7月にテーマとして学んだ「アクセシビリティ」の視点が活きました。



## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

1、会館や地域の活性化 2、職員のスキルアップ 3、鈴鹿で演劇に関心のある方と繋がりたい、この3つの動機で参加しました。ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿は令和6年4月より指定管理者制度を導入し、そのタイミングで組織されたのが鈴鹿アートライフデザイン（代表企業：(株)JTBコミュニケーションデザイン）です。職員の殆どが新規採用された地域住民で文化施設での勤務は初めてです。各々熱意はありますが、知識も人脈もないままガムシヤラに走っている状況でした。5年という指定管理期間が設けられている中で何ができるのか、どこまでを目指せばよいか、各々のビジョンもあいまいです。また当館は2年の改修工事を経て令和6年7月にリニューアルオープンしており、個性的な施設や綺麗なホールを構えながら、いまいち地域での存在感に欠けていました。地域住民からも「文化会館って営業しているの?」「なんか暗いよね」と度々声が上がリ、スタッフの所感も正直同じでした。このような状況の中、本事業担当の清水が演劇好きで「鈴鹿でもっと演劇が盛り上がってほしい!」という気持ちがあり、上記3つの目的達成に繋げるべく、本事業へ申し込みました。

### ●企画・実施において苦労した点

- ・参加者を募る際に「演劇ワークショップ」の一言では「どんなことをするのか?」「何に役立つのか?」のイメージが伝わり辛く苦労しました。イメージがあいまいなものは集客も苦戦しました。チラシの文言を工夫するなど、自分の言葉で説明することで少しずつ参加者を集めていきました。
- ・企画のコンセプトやターゲットを定めても、会館の空き状況や参加を募りたい層のスケジュールの問題で計画通りには進められない部分が複数ありました。制約のある中で最大限の効果を発揮するにはどうしたらよいか考えるのが難しかったです。
- ・若い層（10～20代）を呼び込むことに苦労しました。チラシのデザインの工夫、Instagram等でのプロモーション広告、地域の子どもと繋がっているNPO団体に情報発信を依頼、学生と繋がっている先生や保護者などに直接話してアプローチ等、色々と試しました。今回の企画を通して高校や大学で演劇を行う方と知り合うことが出来ましたし、今後、演劇以外のイベントをする際にも今回の経験が役立ちそうです。

### ●プログラムを実施した成果

- ・アーティスト、アシスタント、地域創造スタッフ各位の視点で当館の面白い点、アクセシビリティにおいて気を付けるべき点など、さまざまにご意見をいただきました。特に会館を見て回った際に、さまざまな部分を「面白がって遊ぶ」田上さんやアシスタントの皆さんの姿勢は大変刺激的で、会館の魅力にスタッフが改めて気付くきっかけとなりました。
- ・演劇の持つ魅力をワークショップに参加した事業担当全員で実感できました。
- ・近隣の高校の演劇部、演劇サークル、市民劇団、観劇好きなど鈴鹿周辺で演劇に関心を持つ様々な方と繋がりが持てました。
- ・市民からの演劇事業に関するニーズを調査でき、今後の演劇事業の継続実施にも期待が持てました。
- ・鈴鹿と同じくJTBコミュニケーションデザインが指定管理者として運営に関わるおおぶ文化交流の杜allobuや一宮市民会館等のスタッフ有志にも参加いただいたことで、各館での情報交換や悩みの共有ができました。
- ・ワークショップに参加した市職員との絆が深まり、相談事がしやすくなりました。

### ●今後の展望

2度のワークショップを実施する中で、演劇が好きな鈴鹿市民が年代問わずたくさん居ることがわかりました。これははじめの一步として、市民が継続的に演劇に親しめる企画を今後も実施していきたいと思ひます。そしてやはり、さまざまな施設があるのが当館の魅力かと思ひますので、これからもスタッフが誰よりも「会館を面白がる!」「会館で遊ぶ!」の気持ちを忘れず、ユニークな空間を活かした様々な演劇事業を実施していければと思ひます。細かくオーダーを聞いていただき、丁寧に伴走していただいた田上様、アシスタントの皆様、地域創造スタッフ様には感謝するばかりです。ありがとうございました!

## 再び、この劇場で

田上 豊

ハヤシユナイテッドホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）は、過去にリージョナルシアター事業を実施した実績を有する会館である。今回は、指定管理者の変更に伴い、異なる組織体からの再エントリーとなった。これは、同一ホールにおいてリージョナルシアター事業が二度実施されるという、非常に珍しいケースである。なお、前回（平成30年度）の実施記録を確認すると、多様なプログラムが展開されていたことが報告されている（地域創造ホームページより閲覧可能）。

第1回目の派遣では、インリーチを中心に、ホール職員向けの育成講座を実施した。内容は、基礎的なアートマネジメントの考え方の整理と、ホールにおけるアクセシビリティの必要性に関するレクチャーである。本講座はホール側からの要望を受けて企画したものであり、今後のホール運営に必要となる基礎的な視点や知識を共有することを目指した。

講座後半では、「アクセシビリティの観点から実際に何ができるのか」をテーマに、職員同士によるブレインストーミングも行った。地域劇場として、地域住民の文化的・芸術的活動をどのように支えていくのかを、改めて立ち止まって考える時間になったのではないかと感じている。ここで得たものを、ぜひ今後の劇場運営に活用していただきたい。

一方、第2回目の派遣では、『すずぶんサーキットシアター』と題し、会館内を回遊しながら演劇創作および発表を行うプログラム（ワークショップ）を展開した。回遊型プログラムは、多くの人的リソースを必要とするが、そのような条件の中でも、今回この形を実現できたことは大きな成果であったと感じている。

このプログラムは、ワークショップの参加者が館内のさまざまな部屋を巡りながら創作活動を行う構成となっており、結果として施設紹介の側面も併せ持つ。このことから、参加者を案内する役割と、各部屋で迎え入れる役割の双方が必要となり、必然的にチームによる運営体制が前提となる。また、参加者を2グループに分け、異なるルートで同時に回遊させるため、運営側にはリアルタイムでの情報共有も求められる。言葉にするとシンプルだが、実際には相応の時間とエネルギーを要するプログラムである。したがって、実施にあたって重要となるのは、十分なスタッフ数と、チームとして協力して運営できる関係性であった。

今回の実施では、ホール職員に加え、同じ指定管理者が運営する他施設の職員、大学生、地域の演劇関係者、さらに地域創造の関係者が加わり、多層的な協力体制のもとでプログラムを遂行することができた。こうした体制が成立した背景には、地域創造の職員とホール職員との良好な関係性、そしてホールと地域とのつながりの積み重ねがあったと考えられる。

今回、2回の派遣を通して特に印象に残ったのは、ホール事業担当者の変化や成長が見られた点である。リージョナルシアター事業におけるアーティストとホール担当者の関係性は、その回ごとに大きく異なる。しかし今回の鈴鹿では、事業内容の協議や事業後のフィードバックの場面において、できる限り対等な立場で意見を交わせる関係性に近づけたように感じ、それは個人的にも嬉しいことであった。もっとも、こうした感覚はアーティスト側の受け止めに過ぎない可能性があり、この点については、次に再会した際に、改めて率直な感想を聞いてみたいと思っている。そして、併せて（満を持して）鈴鹿サーキットを見学してみたい。



## 箕面市立メイプルホール（大阪府箕面市） 実施データ

実施団体	公益財団法人箕面市メイプル文化財団
実施ホール	箕面市立メイプルホール
担当者	森 七恵
実施期間	下見派遣 令和7年6月4日（水）～6月5日（木） 1回目派遣 令和7年10月30日（木）～11月2日（日） 2回目派遣 令和7年12月4日（木）～12月7日（日）
アーティスト等	アーティスト：有門正太郎 アシスタント：野村法可、丸山文弥
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>6月4日（水）メイプルホール下見、箕面市立第三中学校演劇部訪問 6月5日（木）西南生涯学習センター、東生涯学習センター下見、打合せ</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>10月31日（金） 10:00～12:30 「65歳から箕面を楽しむ講座」1回目 15:00～17:00 職員向けインリーチ1回目 11月1日（土） 10:00～12:00 演劇ワークショップ「演劇の中の音楽」 15:00～17:00 職員向けインリーチ2回目</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>12月5日（金） 10:00～12:30 「65歳から箕面を楽しむ講座」2回目 12月6日（土） 13:30～16:30 三中演劇部のためのワークショップ</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣				
月日	6/4（水）	6/5（木）	10/30（木）	10/31（金）	11/1（土）	11/2（日）	12/4（木）	12/5（金）	12/6（土）	12/7（日）	
9:00				会場準備	会場準備			会場準備			
10:00	移動	西南学セン 下見		「65歳から 箕面を楽しむ 講座」① @西南学セン	演劇ワーク ショップ「演 劇の中の音楽」 @西南学セン	振り返り・ 2回目派遣 打合せ		「65歳から 箕面を楽しむ 講座」② @西南学セン	会場準備	振り返り・ 総括	
11:00		移動									
12:00		東学セン 下見			片付け						
		休憩						片付け			
13:00	打合せ	クラシック事業に ついて意見交換		移動・ 会場準備	移動・ 会場準備			休憩			
14:00	メイプル ホール下見	打合せ	移動	休憩	休憩	移動	移動	移動	三中演劇部 のための ワーク ショップ @西南学セン	移動	
15:00	移動			職員向けイ ンリーチ① @メイプル ホール	職員向けイ ンリーチ② @東学セン						地域資源（勝 尾寺）視察
16:00	三中演劇部 視察										
	振り返り										
17:00		移動	打合せ				打合せ				
			インリーチ準備								
18:00			移動								
19:00		インリーチ準備									
20:00											
21:00											

## プログラム詳細

「65歳から箕面を楽しむ講座」(全2回連続講座)

①10月31日(金) 10:00~12:30

②12月5日(金) 10:00~12:30

会場：箕面市立西南生涯学習センター ホール

参加者：①10名 ②13名

参加者は演劇ワークショップが初体験という方ばかりでしたが、多少の戸惑いを感じつつも皆さま非常に積極的でその場を楽しもうと前向きに取り組んでくださり、スムーズに進行することができました。初回の後半には「私だけの箕面の秘密」エピソードを1人ずつ披露しお互いに知っていること・知らないことで大いに盛り上がりました。担当としては市内の交通面の問題から施設に近い中央部・西部からの参加に偏ると思っていましたが、約8km離れた東部にお住いのかたが多かったことと、タイトルによるものか結婚や定年などを機に他市から移ってこれたかたばかりだったことが印象的でした。

ただお申込みの半数が欠席で、事前にご都合が悪くなったとご連絡くださった方もいましたが、体験したことの無いワークショップへのハードルの高さや、参加費を無料としたことも休みやすさの要因の一つではないかと考えています。有門さんには急遽その場でプログラムを見直していただいたと思います。2回目に向けて、欠席者も気負わず参加してもらえようこまめな情報共有とリマインドに努めました。

2回目には新しく3名が参加し、最終的には4つのグループに分かれて「箕面を知らない人向けに箕面の魅力を伝えるツアー」を作ってプレゼンしていただきました。詳細な地図を添えた具体性の高いもの、ストーリー仕立てのもの、ご自宅まで活用して予算を限界まで抑えたもの、季節をこえて複数回訪れるものとどれも行ってみたいと思える面白いツアーができました。

終わりには、知らない箕面を知れた、新しい自分の一面が見えた、知り合いができた、まだ60歳にはなっていないがこれからの人生が楽しみになったと感想をいただき、まさに有門さんから広報用にいただいたメッセージ「あなたの人生は、あなたが主役のストーリー。」を体現しておられる皆さんの姿を見てとても感動しました。小さな規模ではありますが誰かと繋がりたいと思った時に、こういった形のワークショップに可能性があると感じることができました。



## 演劇ワークショップ「演劇の中の音楽」

11月1日（土）10:00～12:00

会場：箕面市立西南生涯学習センター ホール

参加者：18名

クラシック音楽に親しんでおられる方に向けて、音楽だけでなくより広く文化芸術に関心を持っていただきたいと思い、音楽を入口にした演劇ワークショップを有門さんにご依頼しました。試みとしてクラシック音楽事業のダイレクトメールリストを広報に活用してみましたが、ほとんどの方が過去の演劇事業のリピーターで、興味関心以外のものに目を向けていただくことの難しさを感じました。

そんな中、当日の有門さんのファシリテーションでは音楽好きでありながら興味を持って参加してくださった数名の方を上手くピックアップしてお話を掘り下げてくださり、ワークショップ内での視点が演劇に偏ることなく広がりが生まれました。後半は短いテキストに音楽をつけるグループワークに取り組みました。同じテキストなのに選曲、曲を入れる・終わるタイミングなど一つとしてかぶることなく、コメディ、ホラー、エモーショナルと作風の違いも出て、音楽と演劇の関係性の魅力を体感することができました。

終わりににはもっとグループワークの時間が欲しかったとの意見もありましたが、どちらかと言えばそれは演劇好きからの感想で、異なる興味関心を持つ皆さんとクリエイティブな体験をするためには、アイスブレイクや音楽について意見交換し、考えの違いを楽しめるようになるための準備時間がたっぷり必要だとあらためて実感する機会でした。



## 職員向けインリーチ

①10月31日（金）15:00～17:00

②11月1日（土）15:00～17:00

会場：①箕面市立メイプルホール 大ホール ②箕面市立東生涯学習センター ホール

参加者：①10名 ②7名

職員向けインリーチでは、まさに「演劇を教えないワークショップ」を実施していただきました。色・かたち探して頭をほぐし、イス取り鬼で目標に向かって話し合い、力を合わせる体験をしました。その後、目の錯覚を活用した絵画を見て見え方は一つとは限らないことを確認した上で、1枚の写真から全員で物語を創作する面白さを体験しました。後半は一人ずつ、ランダムに配られた写真に絵を描いてタイトルと時・場所を付けるワークに取り組み、自由で個性にあふれた魅力的な作品の数々が生まれました。終わりに、配布された写真は会場内で撮影されたものであることが種明かしされ、最後まで楽しいワークショップでした。

参加した多くのかたにとって演劇のイメージが変わるような想像と違った体験をしていただくことができました。正解がない、自由な感じが良かった、自分の中から湧き出るものを全部肯定してもらえて嬉しかったと感想をいただきました。デスクワークから離れ、普段見慣れた風景の中で職員全員が特別な時間を過ごすことができ、大変有意義でした。



## 箕面市立第三中学校演劇部のためのワークショップ

12月6日（土）13:30～16:30

会場：箕面市立西南生涯学習センター ホール

参加者：11名

箕面市立中学校全8校では、演劇部があるのは唯一この第三中学校のみという現状です。部員は20名程度在籍し、学内・学外で活発に活動しています。指導者はおらず、顧問のお二人は今年度三中に赴任して、演劇部を担当することも初めてだということで生徒主体の活動とのことでした。

当日は1年生4名・2年生6名のほか顧問の先生にも参加いただきました。演劇部向けということでチームワーク、相手との信頼関係を重視するワークにじっくり取り組んだほか、イメージを具体化するワークが大変興味深いものでした。子どもたちには、イメージを広げ深めて、新しい世界を作り上げる楽しさを感じていただけたと思います。

来館時の様子を見て、部員同士の関係はもともと大変良いように見受けました。コミュニケーションのワークも問題が無いように見受けましたが、後で有門さんから男子と女子の関係性に少し変化が見えたのではとご指摘をいただき、なるほどと思いました。具体的には、普段は音響や照明などの裏方を担当している男の子が、もともと演じることにも関心を持っていて、ワークショップの場では演技に関する発言や質問をしてくれました。そういった時間は普段の部活動ではあまり無かったのではないかとご指摘でした。今回のワークショップで子どもたちに少しでも良い変化が起こっていたら良いなと思います。

担当としては演劇を通じて地域の子どもたちとどんな取り組みができるかを探るために実施したものでした。実際に学校や家庭とは異なる関係性の構築や、イメージを伝える力・受け止める力、信頼関係を築くためのステップ、純粋に創作を楽しむことなど、より多くの子どもたちに体験してもらいたいと感じる場面を目の当たりにすることができ、演劇の可能性を再認識いたしました。さらに有門さんには、こういった私たちの探求に応えていただただけでなく、今まさに演劇と向き合っている子どもたちにとっても発見の多い時間になるよう組み立てていただいたことも、とても有難かったです。



## 担当者の報告・評価

---

### ●この事業への参加動機

私たちは、ホールに加えて生涯学習センター等市内6施設を管理運営しており、ホール事業と生涯学習講座事業を連携させた取組みを実施しています。市民参加型の演劇事業については現在に至るまでさまざまな形で取り組んできましたが、これまでの演劇事業によって蓄積してきた地域住民との繋がりをより深めること、また、新たな出会いを広げていくための企画・制作能力の向上を目指すとともに、全国でさまざまな取組みを行っているアーティストの皆さまから今日的な視点・アプローチを学びたいと思い参加いたしました。

### ●企画・実施において苦労した点

企画については、自分がやってみたいと思うことが本当に地域の皆さまから求められていることかどうか、今後地域に良い効果を見出していけるものなのかどうかを確かめていくことに時間がかかりました。そのためにはこれまで以上に職員間での意見交換の必要性を感じ、実践するように心がけました。今後、繋がりたいと思っている人の中で一番近くにいる、どんどん決まってくスケジュールの中で今現実的にアプローチできる範囲にいる人は誰かを、財団内部だけでなく関連する外部の皆さまのお話もお聞きして探っていくプロセスは大変良い経験になりました。

実施においては、演劇ワークショップの意義や魅力を伝える言葉を十分持っていないことが、チラシ作りや参加者に向けてなど、要所要所でつまづきました。多くの方が体験したことのないワークショップであり、「演劇」という言葉のもつ強いイメージ、主に人前で発表をするというような印象を払拭してもらうこと、それだったらやってみてもいいなど考えを転換してもらうことの難しさが残りました。有門さんにはワークショップごとにさまざまな言葉を頂戴し、それがとても大きな力となりました。

### ●プログラムを実施した成果

「65歳から箕面を楽しむ講座」において、対象を明確にしてタイトルとして打ち出すという手法を試してみた結果、過去の演劇事業のリピーターではない新しい参加者と出会うことができました。参加者からもこのタイトルに惹かれて申し込んだというコメントをいただき、ワークショップの主旨・目的によっては効果を得られることが分かりました。中学生向けの企画では、教育現場に携わる皆さまとご縁ができたことも、一步を踏み出す良いきっかけになりました。先生たちは異動があり流動的で、子どもたちも成長し入れ替わっていきます。今回の経験をいかに今後に繋げていけるかというまた新しい課題ができました。そして今回の実施までのすべての行動がメイプルホールと財団を知ってもらう機会であり、今後もっと広げていくための大切なステップになったと思っています。

### ●今後の展望

多目的の公共ホールとして、引き続き演劇事業を多彩なジャンルの中の一つとして定着させていきたいと考えています。今回の「演劇の中の音楽」ワークショップでの体験により、ジャンルを越えて文化芸術に親しむ人たちのクロスオーバーにも興味が湧きました。また子どもたちに向けても、イメージを表現することの面白さや、人と繋がり思いを交わす楽しさを伝えていくことのできる手段の一つとして、演劇を選択肢に提案したいです。今後ホール事業と生涯学習講座事業の連携を発展させていく先に、講座からホールへの逆輸入や、双方向での取組みが出てくるとより面白いと思います。演劇だけでなくさまざまなジャンルで、単発事業・継続事業を織り交ぜながら、より多くの地域の皆さまとの接点を探って箕面らしい形を見つけていきたいと考えています。

また組織として発信力を養っていくことも課題です。小さな組織ですので事業の実現までのステップは比較的整理されており、チャレンジしやすい環境と言えますが、反面一人一人が担う業務にかかりきりになりやすい状態です。私自身、担当事業のことを他の職員と共有する手法やタイミングを確立することも、習慣化することもできておらず、多くの課題があります。それがひいては財団の取組みをより多くの方に広く知っていただくことにつながっていくと思いますので、意見を交わしながら模索していきたいです。

## 市民を味方に新しい景色を創って欲しい

有門正太郎

大阪府箕面市は大阪府の北部に位置し、豊かな自然と都市機能が調和したベッドタウンとして人気のあるエリアで、箕面大滝が有名です。北大阪急行線の延伸（箕面萱野駅・箕面船場阪大前駅の開業）などの影響もあり、2025年3月には、市の歴史で初めて人口14万人を突破しました。

箕面市は他の地域に比べ文化意識が高い印象で地元で高齢者市民劇団や演劇経験者も多く、様々なジャンルのワークショップなどを実施している痕跡が感じられました。

箕面市メイプル文化財団は、メイプルホール（約500席）のほか、市民会館と三つの生涯学習センターを管理している財団で、特徴は生涯学習センターの学びの講座とホールの自主事業が連携をとりながら運営している点でした。

今回の課題は「今までの事業を踏襲しつつ、新しく舵取りをどのように進めるのか？」。

次への一歩に繋がるプログラムを様々行いました。

### ①「65歳から箕面を楽しむ講座」：コミュニティの持続性

対象年齢を明確にする事で年齢的、経験的に躊躇する事なく参加できたと仰っていました。

この企画の裏テーマは「みんなが知り合いになり事業後も関係が続くこと」。実際に事業終わりにふと寄った喫茶店で参加者数名が談笑している姿に出会い、複数回行う効果は頭著で参加者同士の出会いと繋がりを強く感じられました。

### ②「職員向けインリーチ」：組織力の強化と持続可能性

箕面市の演劇事業は、現状、西南生涯学習センターの館長の「マンパワー」に依拠している側面がありました。彼女の献身的な努力は貴重ですが、一人で事業計画や方向性を模索する時間は、組織としての持続可能性においてリスクでもあります。

今後は「共に考え、共に企画できる未来」を職員全体で共有するため、インリーチを実施しました。複数の施設を管理しているため、普段は職員同士のコミュニケーションが取りづらいという物理的・構造的な課題も考慮し、全員が参加できるよう日程を2回に分けました。初めてワークショップを体験する職員や、参加を躊躇していた職員も含まれていましたが、終了後のフィードバックでは「このような場があるのは嬉しい」「また是非やりたい」という前向きな声が多く寄せられました。個人の奮闘から組織的なチームプレーへと舵を切るための、重要な第一歩となりました。

### ③「演劇の中の音楽」：既存事業とのシナジー

メイプルホールが強みとする「多彩な音楽事業」との連携を要望されて実現した企画です。音楽を入り口にする事で、演劇に馴染みのない市民にも門戸を広げることが狙いでした。最終的にはグループワークを行い、各自の「思い出のシーン」を演劇的に再現しながら、そこに音楽を融合させていく手法を採用しました。各自の記憶と旋律が重なることで、より深い表現体験へと繋がりました。

### ④三中演劇部ワークショップ

財団が学生との接点を増やしたいという希望と演劇部では得られない体験を提供したいという要望で台本を使い演出家と向き合う時間を過ごしました。

生徒がイキイキしている時間も長く継続して欲しいと感じました。

## 総括と今後の展望

今回の箕面市における事業を通じて見えてきたのは、成熟した文化意識を持つ市民と、熱意ある職員という素晴らしい組み合わせです。

今後の発展のためには、これまでの「個」の力に依存した形から、市民を「味方」として巻き込み、職員同士の連携を深める「面」へと進化させていくことが重要です。本事業で蒔かれた「繋がり」という種が、箕面市の文化活動において、より豊かで新しい景色を創り出していくことを期待します。自信が無くても一歩進むと見える景色があります。一歩ずつ一人ではなく、皆で歩むと怖くない。

わたし自身沢山の宝物をもらいました。刺激的な体験と現象をありがとう。

## 東リ いたみホール（兵庫県伊丹市） 実施データ

実施団体	公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団
実施ホール	東リ いたみホール（伊丹市立文化会館）
担当者	権田康行、香井亜希子
実施期間	下見派遣 令和7年7月10日（木）～7月11日（金） 1回目派遣 令和7年11月25日（火）～11月28日（金） 2回目派遣 令和8年2月3日（火）～2月6日（金）
アーティスト等	アーティスト：志賀亮史 アシスタント：山本晃子、国末武 アドバイザー：多田淳之介（2回目派遣）
<p>■ 下見派遣内容</p> <p>7月10日（木） ホール下見、演劇プロジェクトチーム打合せ、やまびこ下見・打合せ 7月11日（金） 職員インリーチ打合せ、伊丹ミュージアム・伊丹市昆虫館見学、大阪芸術大学短期大学部下見・打合せ、鴻池小学校下見・打合せ</p> <p>■ 1回目派遣内容</p> <p>11月26日（水） 13:30～15:30 職員向けインリーチ① 16:30～18:00 大阪芸術大学短期大学部アウトリーチ 11月27日（木） 8:50～15:10 伊丹市立鴻池小学校アウトリーチ</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>2月4日（水） 10:30～12:30 職員向けインリーチ② 14:00～16:30 演劇事業プロジェクトチームワークショップ 2月5日（木） 10:30～12:00 教育支援センター「やまびこ」アウトリーチ</p>	

## スケジュール

派遣	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
月日	7/10（木）	7/11（金）	11/25（火）	11/26（水）	11/27（木）	11/28（金）	2/3（火）	2/4（水）	2/5（木）	2/6（金）
8:00					準備					
9:00		移動		移動						
10:00	移動	インリーチ打合せ		演劇PT打合せ	鴻池小アウトリーチ	移動		移動	移動	移動
11:00		ミュージアム見学				やまびこ打合せ		職員インリーチ②	会場準備 やまびこアウトリーチ	
12:00		昼食		昼食		昼食			会場片付け	
13:00	ホール下見	移動	移動	会場準備		打合せ	移動	昼食	移動	
14:00	演劇PT打合せ	昆虫館見学 大阪芸短大下見		職員インリーチ①					準備	昼食
15:00	移動 市役所見学	移動		移動	小学校振り返り	移動	打合せ	演劇PTワークショップ	演劇PT振り返り 休憩	
16:00	やまびこ下見	鴻池小下見	打合せ	打合せ	移動			移動	休憩	全体振り返り
17:00	移動 休憩	移動	移動	大阪芸短大アウトリーチ	振り返り			振り返り	移動	
18:00	振り返り	振り返り		移動	移動			移動		
19:00	交流会	移動		交流会				交流会		
20:00	移動			移動				移動		

## プログラム詳細

### 職員向けインリーチ①

11月26日（水）13:30～15:30

会場：東り いたみホール 多目的ホール

参加者：12名

東り いたみホール、アイホール、伊丹アイフォニックホールの職員を中心に、市役所所管課の課長も交え、志賀さんが行っている演劇のアウトリーチプログラム「効果音に隠された物語」を体験するプログラムを実施した。

今後、伊丹アイフォニックホール、東り いたみホールは大規模改修による休館が計画されており、休館中にアウトリーチを展開していくために職員自身がプログラムを体験。

志賀さんからアウトリーチの意義や目的などについても解説があり、学校等との調整に活かされるものとなった。

参加者から「答えの無いものに対してどう対応するか、気分が乗らない子どもにどうやってその時間を楽しんでもらえるかなど、経験をもとにしたお話を聞くことができたのは、非常に良かったです」という感想があった。



### 大阪芸術大学短期大学部アウトリーチ

11月26日（水）16:30～18:00

会場：大阪芸術大学短期大学部 P-401教室

参加者：17名

演劇を学ぶメディア・芸術学科舞台芸術コース1年生を対象に、志賀さんが小学校などで実施しているワークショッププログラム「妖怪探検隊」を体験した。

まず、アイスブレイクとして、イメージを広げ空間を捉える、幾つかのワークを行った。その後、過去に同プログラムを実施した際に使用した小学生が撮った写真や教室の写真を見て、写真の中に妖怪に見えるところがないかを想像。はじめはどう表現したらいいか戸惑っている学生の様子も見られたが、徐々に様々な「妖怪」の発表に繋がっていった。

卒業後に俳優を目指す学生に対して、ワークショッププログラムを実施することで「演劇は社会に向けてなにかができるのだろう」という視点から、演劇を捉え直してもらう機会となった。



## 伊丹市立鴻池小学校アウトリーチ

11月27日（木） 8:50～10:25（5年2組）、10:50～12:25（5年3組）、13:35～15:10（5年1組）

会場：伊丹市立鴻池小学校 ランチルーム

参加者：92名（1組31名、2組31名、3組30名）

鴻池小学校5年生を対象に、1クラスにつき2コマで「効果音に隠された物語」を探すワークショップを実施した。

まず、効果音から形や色、匂い、味などを連想するワークでは、児童の自由な発想が見られた。続いて、効果音を聞いて、1シーンをつくるワーク。そして、班にわかれて効果音から着想した短い物語を創作。発表後には、志賀さんから「今までに出てこなかった発想だった」というコメントもあった。

児童からは「効果音から想像するという体験は初めてで、新しい考え方が生まれた気がしました」「いろんな演技方法があって、音などで演技を楽しめるのが良かったです」という感想があった。

授業後の先生との振り返りでは、「普段、あまり学校へ来られていない児童も参加し、表現を楽しんでいる様子が見られた」や「子どもの意外な一面を見ることができ、新しい発見だった」というコメントがあった。



## 職員向けインリーチ②

2月4日（水） 10:30～12:30

会場：東リ いたみホール 多目的ホール

参加者：12名

職員を対象に、志賀さんが行っている演劇のアウトリーチプログラム「効果音に隠された物語」を体験するプログラムを実施した。

いたみ文化・スポーツ財団は、文化芸術だけでなく、昆虫専門の博物館やスポーツ施設など多様な市内8施設の指定管理者だが、それぞれの施設の職員は、他の施設の職員と協働する機会は多くない。財団全体に呼びかけ、複数の施設の職員が演劇プログラムを体験する機会となった。

「音からの匂いや、味、景色等を思い浮かべて表現するのは、普段ほとんど意識したことがなかったので、新鮮だった」「普段は仕事でしか接することのない職員の、いつもと違った一面が見られたことが面白かった」という感想があった。

今後の職員研修で演劇的手法を活かしたものを取り入れてもいいのではないかと感じるものであった。



## 演劇事業プロジェクトチームワークショップ

2月4日（水）14:00～16:30

会場：東りいたみホール 多目的ホール

参加者：6名

アイホール閉館後の演劇事業の展開を検討するために組織された演劇事業プロジェクトチームの職員が、管理職チームと若手チームの2班に分かれて、人員・予算の制限がない中で、どういった演劇事業に取り組みたいかを検討するワークショップを実施した。

まずは、SWOT分析の手法を使い、現状を改めて客観的に考えることを行なった。普段の業務に追われている状況では、肌感覚で感じていることをそれぞれが言語化する機会が少ない。それぞれが誰に対して事業を届けたいのかを考えることにも繋がった。

管理職チームは大規模改修後のリニューアル開館時期を想定した「リ・ポーン フェス」、若手チームは伊丹をリサーチして創作する「みんなで作るいたみのものがたり」を企画。それぞれの班が企画を発表し、志賀さんから、これまでに演劇事業で培った演劇人とのつながりを活かして、取り組むのが良いとアドバイスを得た。また、演劇の手法がどのように地域課題に対応し、地域づくりに活かせるか、改めて「公共性」を考える機会となった。



## 教育支援センター「やまびこ」アウトリーチ

2月5日（木）10:30～12:00

会場：やまびこ 交流スペース

参加者：10名

不登校児童生徒の学力の向上や学ぶ意欲を高めることをとおして、学校復帰を含めた社会的自立に向けた支援を行っている伊丹市教育支援センター「やまびこ」。これまで当館の事業として現代美術のアウトリーチを実施したが、今回、初めて演劇でのアウトリーチに取り組んだ。

志賀さんが小学校などで実施されている効果音からイメージを膨らませ、「効果音に隠された物語」を探すワークショップを実施。アイスブレイクでは緊張した面持ちの児童・生徒たちであったが、2班に分かれてのグループワークでは、ギリギリの時間までアイデアを出し合い、演劇を楽しんでいる様子が見られた。

授業後、児童・生徒から「他の人の意見が自分と全然違うけど、とても共感できて、音だけで色々なことを想像するのが楽しかった」「どうやったらうまく表すことができるか、たくさん考えて話し合いをして決めることができました」という感想があった。



## 担当者の報告・評価

### ●この事業への参加動機

伊丹市では、徒歩10分圏内に、当館の他に、演劇に特化したアイホール、音楽に特化した伊丹アイフォニックホールと文化施設が集中しているという特徴がある。それぞれの持つコンテンツを互いに連携する取り組みを行なっているところであるが、演劇事業のあり方を検討していく中で、若い世代に演劇に触れられる環境を整備する必要性を感じ、アウトリーチにも積極的に取り組んでいきたいと考えている。

当館の館長、副館長はアイホールで演劇事業に取り組んできた経験があるものの、他の職員は演劇事業の経験がなく、本事業を通じて、新たな展開を模索していく上でのスタートアップとして、人材育成の機会といたく参加した。

伊丹市において策定された文化振興ビジョンでは、「出会い」「対話」といったキーワードをより具体的に内容や評価の手法に踏み込むことになった。こういった流れの中、改めて、劇場の求められている方向性を模索するきっかけを本事業の実施によって得たいと考えた。

### ●企画・実施において苦労した点

アイホール閉館後、当館と伊丹アイフォニックホールで演劇事業を継承していく方針が早くに示された。そのため、当財団では今年度から演劇事業の展開を検討する演劇事業プロジェクトチーム（PT）が組織され、演劇事業PTを中心に本事業に取り組んだ。しかし、アイホール閉館に向けて、業務が忙しくなる中、スケジュール調整には苦慮した。他の業務もある中、じっくりと本事業に取り組むことができなかつた点もある。アイホールで培ったノウハウをどのように共有していくべきか、手探りで、志賀さんと相談しながら進めた。

体制が不確定な中、他の職員を巻き込んで取り組めたら良かったが、職員減のため、人員を割くことが難しい点があった。また、早くからスケジュールを伝え、調整をしても、当日に急遽参加できなくなる職員もいた。

### ●プログラムを実施した成果

本事業は、当館を含めたホール3館の職員だけでなく、当財団が管理運営するスポーツ施設や昆虫専門の博物館など演劇事業の経験が少ない職員にとって、アウトリーチの考え方と実践を学ぶ実践的な人材育成の機会となった。また、理事長や常務理事などの経営陣及び伊丹市の職員も積極的に本事業を見学したことで、財団全体として、また行政においても演劇事業に対する一定の理解とマインドセットを形成する契機となった。

さらに、本事業は鴻池小学校および大阪芸術大学短期大学部の協力を得て実施することができたため、次年度以降の連携についても相談しやすい関係性を築くことができた。

昨年度まで伊丹市教育支援センター「やまびこ」で現代美術のアウトリーチを実施してきたが、今回の演劇的手法を用いたワークショップでは、これまでとは異なる手応えを感じる事ができた。ご担当や、児童や生徒からも温かいコメントがあり、継続できる可能性を感じている。

演劇事業PTが、前向きに今後の演劇事業について、どうしていくかを考える機会となった。日々の業務に追われ、じっくりと考える時間を設けることが難しい中、ポジティブな企画案が立ち上がった。志賀さんからのコメントがあったように、演劇の力を信じている職員が多いことは、当財団にとって財産であると改めて感じた。これを市民の共感を得られるように、どのように演劇事業に取り組むべきか、時々立ち止まり、考え続ける必要性を感じている。

### ●今後の展望

本事業の実施を通して、職員の間にも演劇事業に対するポジティブな認識を広げることができた。今後は財団の経営計画に掲げるビジョンの実現に向け、特定の施設に限定するのではなく、財団全体の事業として演劇を含めた取り組みを継続していきたい。

また、職員向けワークショップの実施を通して、経営層も演劇的手法が職員同士の相互理解を深めるうえで有効であることを実感した。今後は、春に新規採用される職員を中心に、演劇的手法を取り入れたワークショップの実施についても検討していきたい。

さらに、鴻池小学校の担当教諭からは、文化庁「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（コミュニケーション能力向上）」への申請を目指したいという声もいただいている。次年度以降、学校と連携しながら採択に向けた取り組みを進めていきたい。アウトリーチをするには、まず、プログラムに対する理解が必要であることから、先生達に伝えるための機会を設けることで説得力が高まると考え、先生対象のアプローチを検討したい。

最後に、本事業の実施にあたり、志賀亮史さんをはじめ、アシスタントの山本晃子さん、国末武さん、そして地域創造の皆様から多くのサポートをいただいた。この場を借りて心より御礼申し上げます。

### AI・HALL 閉館をきっかけに

志賀亮史

いたみ文化・スポーツ財団は、東りいたみホール、演劇向けのAI・HALL、音楽向けの伊丹アイフォニックホールの3館だけでなく、生涯学習センターやミュージアム、昆虫館やスポーツ施設など複数の施設を管理、運営しており、それぞれ、さまざまな取り組みを行っています。ただ、令和7年度いっばいでAI・HALLが閉館することになっています。そのため演劇事業は、東りいたみホール、アイフォニックホールを中心に振り分けていくことになるそう。また、令和9、令和10～11年と先のホール二つが工事閉館することが決まっており、今後の演劇事業の形を含めて考える機会として、今回リージョナルシアター事業に応募されました。

担当の東りいたみホールの館長・権田さんと話し合った結果、事業は、①財団内部へのインリーチ、②AI・HALL 閉館に伴い、今後の演劇事業を担うプロジェクトチームへのインリーチ、③小学校、地元大学、不登校児童支援施設でのアウトリーチの3つの柱で実施しました。

先も書きましたが、今回の伊丹で一番のテーマは結局、AI・HALLは閉じるけれど今後どうしていくのか、ということだったと思います。ひとつの終わりがあるので、当然今までは変えていかなければならない。けれど、その中で引き継ぐもの、引き継げないもの、変えるもの、変えないものを選び、財団の当事者の皆さんはそれぞれの立場で変化に対応していく必要があります。その悩みを内部で共有し、どうよくしていくのか、そのためにインリーチをし、今後を見据えたアウトリーチをし、演劇事業を担当するチームと悩む時間になったと思います。

その中で、私が希望を感じた部分としては、財団の職員のみなさんが個性的で、専門性の高い方が多いということです。そして、みなさん確固とした「愛するもの」をもっている人が多い。それは「虫（昆虫食含む）」だったり、「ピンセット」だったり、「鳥」だったり、「酒」だったり、「アイドル」だったり、「サッカー」だったり。ミーティングや交流会、インリーチなどで、「愛するもの」を話すときのひとりひとりのいきいきとした表情が印象に残っています。これだけ濃い個性が集まっている財団は全国的にみても、なかなかないのでは。この個々のユニークさを個々で終わらせず、有機的なつながりを作ることができれば、伊丹ならではの強みとなっていくのではないかと感じました。

一方で、AI・HALLが培ってきた演劇をどう捉え直すのか、という課題は事業の期間中、何度か出てきました。演劇の良さを理解している職員が多いがゆえに、地域にいる演劇に興味がないなど、関係を持たない人々との間に意識の差ができてしまっているところはあるかもしれません。演劇の良さを伝える上で、演劇をもちたてるのではなく、演劇が地域社会にできることはなにか、そういう方向で演劇の良さを市民に伝える手段もあるのでは、と問題意識を共有して、今回は終わりました。この問題意識を今後どう活かしていくかではありますが、演劇事業プロジェクトチームには、経験豊かなベテランとガッツのある若い職員がいるので、展開はきっとあるのではないかと考えています。

伊丹から残念ながらAI・HALLはなくなってしまいますが、むしろこのことをきっかけによりよくする力が伊丹の財団にはあると思います。大変なことも多いと思いますが、ぜひ伊丹とホールのよい未来を目指して行ってほしいです。



令和7年度リージョナルシアター事業報告書

発行・編集：一般財団法人地域創造

発行日：令和8年6月

